

ATND1061LK

ATND1061DAN

ビームフォーミングアレイマイクロホン

取扱説明書
-Digital Microphone Manager編-

目次

Digital Microphone Managerについて	6
Digital Microphone Managerとは	6
対応モデル・推奨環境について	6
Digital Microphone Managerをインストールする	6
使いかたの例	7
Digital Microphone Managerとマイクロホンの接続	9
マイクロホンとの接続のしかた	9
マイクロホンと接続できない場合	9
ファイアウォールの設定について	9
Digital Microphone Managerの起動	11
トップメニュー画面でできること	11
Digital Microphone Managerをアップデートする	11
新規プロジェクトの作成	13
プロジェクト画面の見かた	15
メインメニューでできること	16
部屋の設定	17
グリッドを表示する	17
グリッドの表示をON/OFFする	17
グリッドの表示設定を変更する	17
画像を配置する	18
画像の表示をON/OFFする	18
画像ファイルを取り込む	18
画像の透過率を設定する	19
画像の位置・角度を設定する	20
画像のサイズを設定する	21
部屋のサイズ・オフセットを設定する	22
部屋のビューレベルを変更する	23
メインエリアの表示倍率を変更する	23
マイクロホンの追加/接続	25
オフラインのマイクロホンを追加する	25
オンラインのマイクロホンを追加する	25
マイクロホンを削除する	27
デバイスリストの見かた	27
デバイスリストメニューでできること	29
マイクロホンを接続する	29
マイクロホン設定	32
マイクロホン設定画面の見かた	32
マイクロホンの表示カラーを設定する	34
マイクロホンの位置・方向を設定する	35

目次

マイクロホンの收音エリア角度を設定する	36
マイクロホンをロックする	37
プリセットについて	38
プリセットを保存する	38
プリセットを呼び出す	40
ビームゾーン設定	41
カバレッジゾーンを設定する	41
カバレッジゾーンを追加する	41
カバレッジゾーンを削除する	43
カバレッジゾーンをロックする	43
カバレッジゾーンの音声入力レベルを設定する	44
プライオリティゾーンを設定する	45
プライオリティゾーンを追加する	45
プライオリティゾーンを削除する	47
プライオリティゾーンをロックする	47
音声出力チャンネルを変更する	48
プライオリティゾーンの音声入力レベルを設定する	49
エクスクルージョン（收音除外）ゾーンを設定する	50
エクスクルージョンゾーンを追加する	50
エクスクルージョンゾーンを削除する	52
エクスクルージョンゾーンをロックする	52
ゾーンレイアウトプリセットについて	53
ゾーンレイアウトプリセットを保存する	53
ゾーンレイアウトプリセットを呼び出す	55
ポジションマーカーについて	56
ポジションマーカーを追加する	56
ポジションマーカーを削除する	58
オーディオ設定	60
オーディオ設定画面を表示する	60
オーディオ設定画面の見かた	60
AECモード	61
Voice Liftモード	62
DSPモードを切り替える	63
ゲインを調整する	63
ローカットを設定する	63
4バンドEQを設定する	64
4バンドEQを調整する	64
簡易モードで調整する	64
詳細モードで調整する	65
オートミックスの状態を確認する	67

目次

オートミックスを設定する	68
AGCを設定する	69
AECを設定する	70
NCを設定する	71
ボイスリフト機能を使用する	72
ボイスリフト機能と一般的な拡声機能の違い	72
ボイスリフト機能の使用に向いている部屋	72
ボイスリフトを設定する	73
ミュートを設定する	74
入出力レベルを調整する	74
Analog Inputの入力タイプを設定する	75
Analog Inputのファントム電源を設定する	75
Analog Outputのユニティレベルを設定する	76
チャンネル名・色を設定する	76
オーディオ設定をコピーする	77
オーディオ設定をリセットする	79
カメラエリア設定	80
カメラエリアを追加する	80
カメラエリアを削除する	82
カメラエリアをロックする	82
グループを設定する	83
カメラ連動機能を使用する	84
システム構成例	84
動作確認済み端末	85
コマンド一覧（Panasonicプロトコル）	87
コマンド一覧（VISCA over IP/JVC standardプロトコル）	87
接続方法	87
カメラ連動機能の一時停止について	88
Settings & Maintenance	89
Settings & Maintenance画面の基本操作	89
General（System Settings）	90
Device Name	90
Command Link	90
GPI Settings	91
Include in Setting file	91
Network（System Settings）	91
Dante Network Configuration	91
Dante & Audio Port Settings	92
IP Control & Web Remote Port Settings	92
Allow Discovery	92

目次

IP Control Settings	92
Include in Setting file	93
Audio (System Settings)	93
Beam Settings	93
DSP Mode	93
Dante Tx#6 Signal	94
LED (System Settings)	94
LED Settings	94
LED Dimmer	94
IR Receiver (System Settings)	94
Allow Control	94
Utilities (System Settings)	95
Firmware Update	95
Reset All Settings to Default	96
Presets	96
Presets	96
プリセットを書き出す	96
プリセットを読み込む	97
Camera	99
Device	99
Talk Setting	99
Silent Setting	99
Logging	99
System Info	100
アプリケーション設定	101
Settings画面の基本操作	101
Settings (APP Settings)	102
Auto Reconnect	102
Page Settings	103
File Location	103
4 Band EQ Library (Presets)	103
EQプリセット名を変更する	103
EQプリセット／ライブラリーを書き出す	104
EQプリセット／ライブラリーを読み込む	105
Zone Layout Library (Presets)	106
ゾーンレイアウトプリセット名を変更する	106
ゾーンレイアウトプリセット／ライブラリーを書き出す	106
ゾーンレイアウトプリセット／ライブラリーを読み込む	107
複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061DAN)	109
Digital Microphone Managerの設定	109

目次

Dante Controllerの設定	111
信号系統イメージ	113
複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061LK)	114
ゲインシェアについて	114
強制アップデートについて	115
エラーメッセージ一覧	116
商標について	117

Digital Microphone Managerについて

Digital Microphone Managerとは

Digital Microphone Managerはオーディオテクニカのデジタルマイクロホン（対応モデル）の運用をサポートするアプリケーションです。プロジェクトの作成やマイクロホン設定、オーディオ設定だけでなく、実際にマイクロホンを設置する部屋のレイアウトを想定した収音範囲の設定が可能です。オンライン環境では、リアルタイム編集や話者位置の表示ができますので、施工現場での詳細設定の役に立ちます。

対応モデル・推奨環境について

Digital Microphone Managerはパソコン用です。タブレットやスマートフォンでは使用できません。

項目	内容
対応モデル	ATND1061LK ATND1061DAN
動作可能OS	Microsoft Windows 10、11
推奨ディスプレイ解像度	1280×720以上

Digital Microphone Managerをインストールする

- 1 パソコンにDigital Microphone Managerをダウンロードします。
 - 当社ホームページ（<https://www.audio-technica.com/>）からご使用の国または地域を選択し、各サイトよりダウンロードしてください。
- 2 ダウンロードした“DigitalMicrophoneManager-X.X.X-Setup.exe”をダブルクリックします。
- 3 セットアップウィザードに表示された指示に従い、Digital Microphone Managerをインストールします。



- お使いのパソコンに.NET 6.0のRuntimeがインストールされている必要があります。インストール確認画面が表示された場合は、画面の指示に従ってインストールしてください。

使いかたの例

マイクロホンの設置現場での作業前に、設計計画に基づいてオフラインでプリセットおよびプロジェクトを作成します。その後、設置現場でDigital Microphone Managerをネットワークに接続してマイクロホンと同期し、実際に音を出しながら各設定を細かく調整します。

1 新規プロジェクトを作成します。

- 新規プロジェクトを開き、部屋のサイズを設定します。
- 詳しくは、「新規プロジェクトの作成」(p.13)を確認してください。

2 部屋を設定します。

- マイクロホンを配置する際の参考になるようグリッド表示を設定します。
- マイクロホンの配置やビームゾーンの設定の参考になる画像（部屋のレイアウト図など）を読み込みます。
- 詳しくは、「部屋の設定」(p.17)を確認してください。

3 マイクロホンを配置します。

- オフラインでマイクロホンを追加し、位置や方向、收音エリア角度などを設定します。
- 詳しくは、「マイクロホンの追加／接続」(p.25)および「マイクロホン設定」(p.32)を確認してください。

4 ビームゾーンを設定します。

- カバレッジゾーン・プライオリティゾーン・エクスクルージョン（收音除外）ゾーンを設定します。
- 詳しくは、「ビームゾーン設定」(p.41)を確認してください。

5 各チャンネルの音質を設定します。

- 詳しくは、「オーディオ設定」(p.60)を確認してください。

6 オートミックスを設定します。

- 詳しくは、「オートミックスを設定する」(p.68)を確認してください。

7 システム設定をします。

- マイクロホンのシステムに関する設定（インジケーターの色など）をします。
- 詳しくは、「Settings & Maintenance」(p.89)を確認してください。

8 プリセットを作成します。

- 詳しくは、「プリセットについて」(p.38)を確認してください。

9 ネットワークに接続します。

- ネットワーク設定をしてネットワークに接続します。
- 工場出荷時、マイクロホンの「IP Config Mode」は「Auto」に設定されています。パソコンのIP アドレス設定を自動取得にしてください。
- 詳しくは、「Digital Microphone Managerとマイクロホンの接続」(p.9)を確認してください。

10 マイクロホンと接続します。

- マイクロホンと接続し、作成したプロジェクトのマイクロホン設定を同期します。
- 詳しくは、「マイクロホンを接続する」(p.29)を確認してください。

11 実際に音を出しながら、各設定を調整します。

- マイクロホンの收音状態やスピーカーからの音声出力状態を確認し、オフラインで行った各設定を調整します。

Digital Microphone Managerとマイクロホンの接続

マイクロホンとの接続のしかた

- 1 パソコンのIP アドレス設定を自動取得にします。
- 2 マイクロホンとDigital Microphone Managerがインストールされたパソコンを同じネットワークに接続します。
 - 工場出荷時、マイクロホンの「IP Config Mode」は「Auto」に設定されています。
- 3 Digital Microphone Managerを起動します。



- オペレーティングシステムやセキュリティソフトウェアによっては、セットアップの途中で通信の許可を求める確認画面が表示されます。その場合は、通信を許可してください。
- IPアドレスを固定して接続する場合は「IP Config Mode」を「Static」に設定してください。

マイクロホンと接続できない場合

マイクロホンと接続できない場合は、次の点について確認してください。

- お使いのパソコンのファイアウォールやセキュリティソフトのファイアウォールの影響によって、Digital Microphone Managerが正しく動作しない場合があります。その場合は、ファイアウォールの設定を確認し、Digital Microphone Managerの通信を許可してください。
- Digital Microphone ManagerはIPマルチキャストを使用しています。お使いのネットワーク環境で、マルチキャストのIPアドレス／ポート番号がブロックされていないか確認してください。
- 安定的な接続を確保するため、パソコンから複数のネットワークに接続しないことをお勧めします。例えば有線LANでマイクロホンと接続している場合は、Wi-Fi 接続は無効にしてください。複数のネットワークが有効になっていると、マイクロホンが検出されなかったり、接続が切れたりする場合があります。

ファイアウォールの設定について

- 1 スタートメニューから「Windowsセキュリティ」をクリックします。
- 2 「ファイアウォールとネットワーク保護」をクリックします。
- 3 「ファイアウォールによるアプリケーションの許可」をクリックします。
- 4 Digital Microphone Managerのドメイン、プライベート、パブリックのすべての項目にチェックが入っているか確認します。
 - チェックが入っていない場合は、すべての項目にチェックを付けてください。

Digital Microphone Managerとマイクロホンの接続

5 「OK」をクリックします。



- Digital Microphone Managerが一覧に出ていない場合は、「別のアプリの許可」をクリックして、Digital Microphone Managerを追加してください。リストに出てこない場合は場所を指定する必要があります。
次の場所のファイルを指定してください。
C:\Program Files\Audio-Technica\Digital Microphone Manager
ファイル名：DigitalMicrophoneManager.exe



- 最新のDigital Microphone Managerと古いバージョンのマイクロホンを接続した場合、対応していない項目がグレースアウトし、操作できない場合があります。マイクロホンを最新のファームウェアにアップグレードしてご使用ください。

Digital Microphone Managerの起動

1 パソコンにインストールしたDigital Microphone Managerを起動します。

≫ トップメニュー画面が表示されます。

トップメニュー画面でできること

New Project

プロジェクトを新規に作成します。

Open Project

パソコンに保存しているプロジェクトファイルを開いてプロジェクトを編集します。

Connect Online Device

同じネットワーク内にあるマイクロホンと接続します。

Update Now

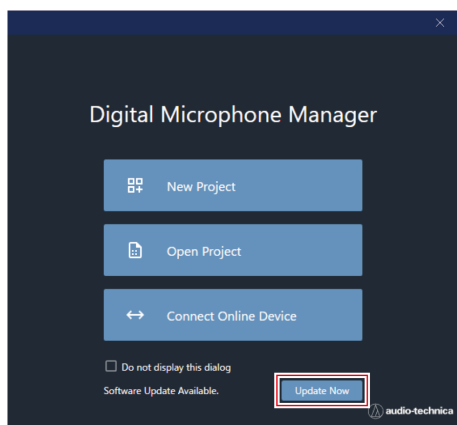
Digital Microphone Managerのアップデートを行います。アップデートできる場合のみ表示されます。



- 「Do not display this dialog」のチェックボックスをクリックしてONにすると、次回の起動からトップメニュー画面が表示されずに「New Project」画面から表示されます。アプリケーション設定の「Page Settings」(p.103)でも設定を変更できます。

Digital Microphone Managerをアップデートする

1 トップメニュー画面で「Update Now」をクリックします。



≫ アップデートファイルの検索が開始され、セットアップ画面が表示されます。

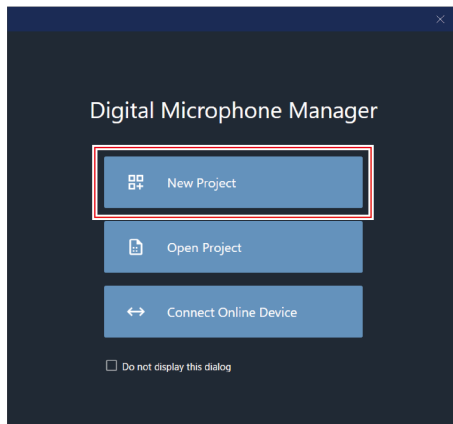
2 セットアップ画面の表示に従って、アップデートを行います。

Digital Microphone Managerの起動

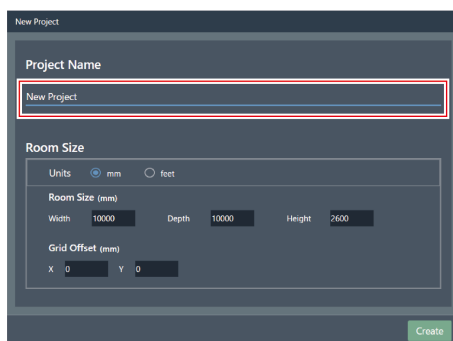
» アップデートが完了すると、Digital Microphone Managerが自動的に再起動されます。

新規プロジェクトの作成

- 1 トップメニュー画面で「New Project」をクリックします。



- 2 プロジェクト名を入力します。



- 3 部屋のサイズを設定します。

- 「Units」(単位)を選択し、「Room Size」に部屋の「Width」(横幅)・「Depth」(奥行)・「Height」(高さ)を入力します。
- 「Grid Offset」に原点からの部屋のオフセット位置を設定します。
- オフセットは、原点からマイナス方向に移動します。例えば、5,000mmオフセットしたい場合、「-5000」と入力します。
- プロジェクト名や部屋のサイズの設定は、プロジェクト作成後に変更することができます。

新規プロジェクトの作成

New Project

Project Name

New Project

Room Size

Units ☒ mm ☐ feet

Room Size (mm)

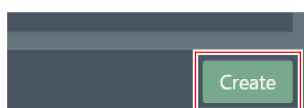
Width 10000 Depth 10000 Height 2600

Grid Offset (mm)

X 0 Y 0

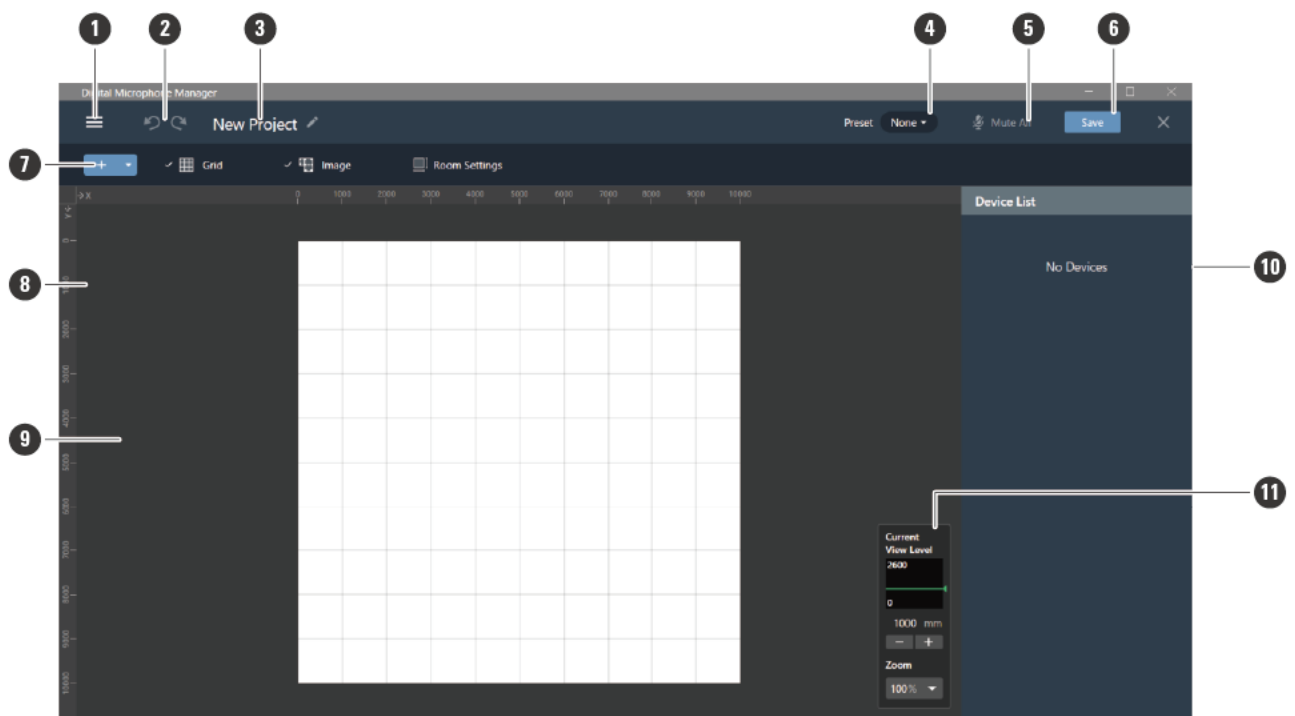
Create

4 「Create」をクリックします。



≫ 新規のプロジェクト画面が開きます。

プロジェクト画面の見かた



① メインメニュー

クリックすると、メインメニューを選択することができます。

② 元に戻す／やり直しボタン

クリックすると、操作を元に戻す／取り消した操作をもう1度行うことができます。

③ プロジェクト名

プロジェクト名を表示します。クリックすると、プロジェクト名を変更することができます。

④ Preset

クリックすると、プリセットの保存・呼び出しをすることができます。詳しくは、「プリセットについて」(p.38)を確認してください。

⑤ Mute All

クリックするたびに、プロジェクト内すべてのマイクロホンのミュート／ミュート解除を一括で切り替えます。

⑥ Save

クリックすると、プロジェクトファイルを保存することができます。

⑦ ツールバー

部屋やマイクロホンの設定ツールを表示します。

⑧ ルーラー

原点位置からの目盛りを表示します。

⑨ メインエリア

部屋を上から見た状態を表示します。メインエリアをドラッグすると、部屋の表示位置を移動できます。マイクロホンの「Audio」を選択しているときはオーディオ設定を表示します。

プロジェクト画面の見かた

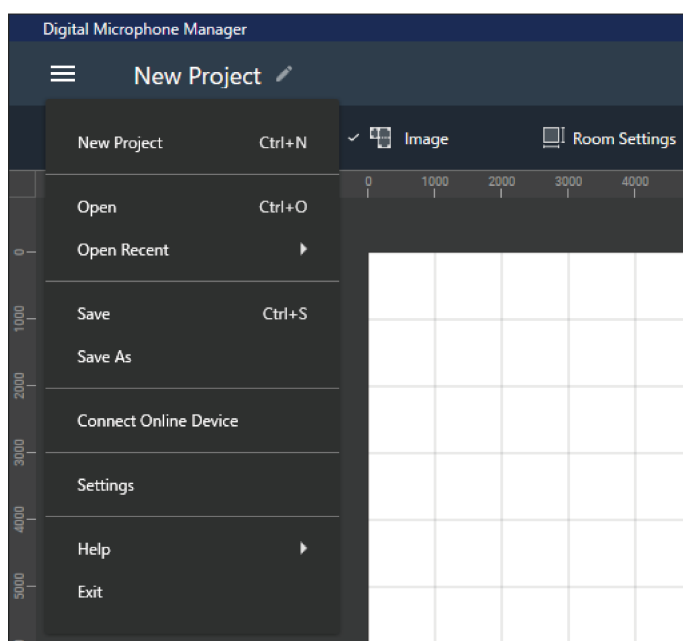
10 コンテキストパネル

選択したマイクロホンやビームゾーン、ツールの設定を表示します。マイクロホンやビームゾーン、ツールが選択されていないときはデバイスリストを表示します。

11 ビューレベルコントローラー

マイクロホンのビューレベル、メインエリアの表示倍率を設定します。

メインメニューでできること



メインメニュー	説明
New Project	新規プロジェクトを作成します。
Open	パソコンに保存しているプロジェクトファイルを開きます。
Open Recent	最近開いたプロジェクトファイルを開きます。
Save	プロジェクトファイルを上書き保存します。
Save As	プロジェクトファイルに名前を付けて保存します。
Connect Online Device	同じネットワーク内にあるマイクロホンと接続します。
Settings	アプリケーションの設定をします。詳しくは「アプリケーション設定」(p.101)を確認してください。
Help	サブメニューの「Help」をクリックすると、Digital Microphone Managerのオンラインヘルプサイトを表示します。「About」をクリックすると、バージョンなどのアプリケーション情報を表示します。
Exit	Digital Microphone Managerを終了します。

部屋の設定

グリッドや画像の表示、部屋のサイズなどの設定を変更します。

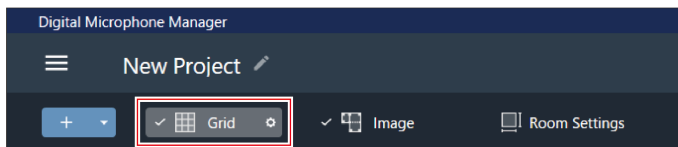
- マイクロホンやビームゾーンなどが選択されているときは、メインエリアの余白部分をクリックして選択を解除してください。

グリッドを表示する

グリッドの表示をON/OFFする

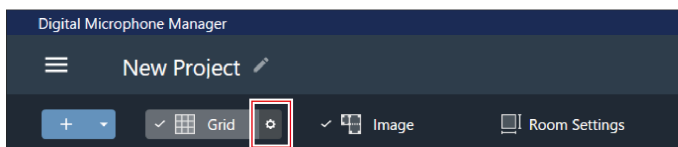
1 ツールバーの「Grid」をクリックします。

- クリックするたびに、グリッドの表示のON/OFFが切り替わります。
- グリッドの表示をONにすると、「Grid」にチェックマークが付きます。



グリッドの表示設定を変更する

1 ツールバーの「Grid」の歯車マークをクリックします。



≫ コンテキストパネルに「Grid Setting」が表示されます。

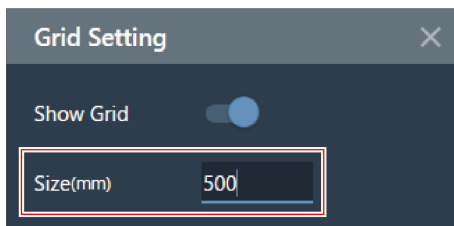
2 「Show Grid」のスイッチをクリックします。

- クリックするたびに、グリッド表示のON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



3 「Size」にグリッドのサイズ（1マス分）を入力します。

部屋の設定



4 メインエリアをクリックする、またはEnterキーを押します。

≫ グリッドの表示設定が変更されます。



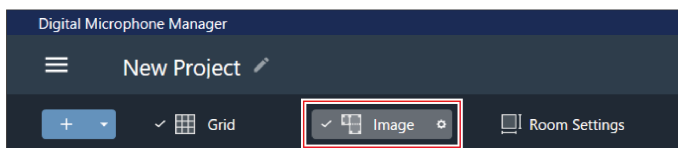
- グリッドは原点を基準に表示されます。グリッドのサイズや原点からの部屋のオフセット位置を変更して、実際のグリッド天井に合わせることができます。

画像を配置する

画像の表示をON/OFFする

1 ツールバーの「Image」をクリックします。

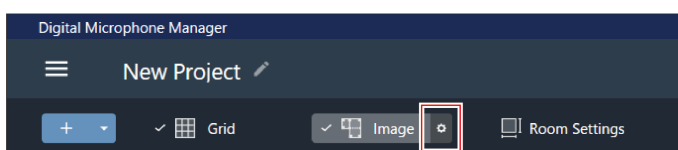
- クリックするたびに、画像の表示のON/OFFが切り替わります。
- 画像の表示をONにすると、「Image」にチェックマークが付きます。



≫ 画像の表示がON/OFFされます。

画像ファイルを取り込む

1 ツールバーの「Image」の歯車マークをクリックします。

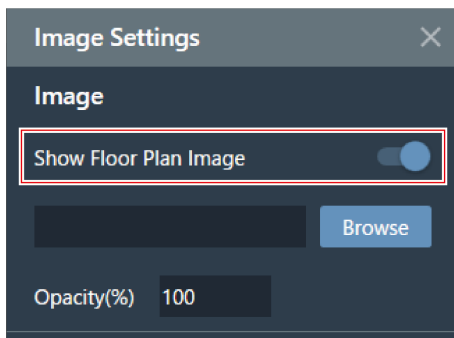


部屋の設定

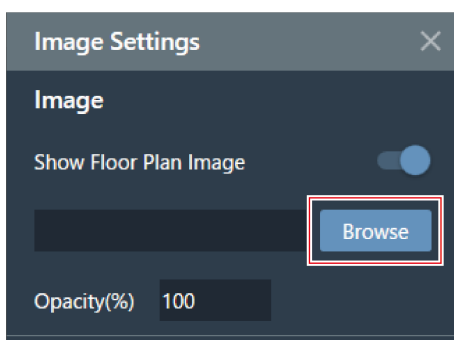
≫ コンテキストパネルに「Image Settings」が表示されます。

2 「Show Floor Plan Image」のスイッチをクリックします。

- クリックするたびに、画像の表示のON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



3 「Browse」をクリックします。



4 パソコンに保存している画像ファイルを選択して開きます。

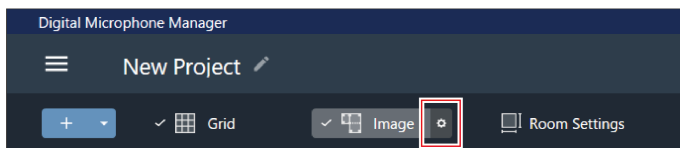
- png, jpg, jpeg, bmpに対応しています。
- 取り込める画像は1ファイルのみです。
- すでに画像を取り込んでいる状態で別の画像を取り込むと、後から取り込んだ画像に置き換わります。

≫ 画像が取り込まれます。

画像の透過率を設定する

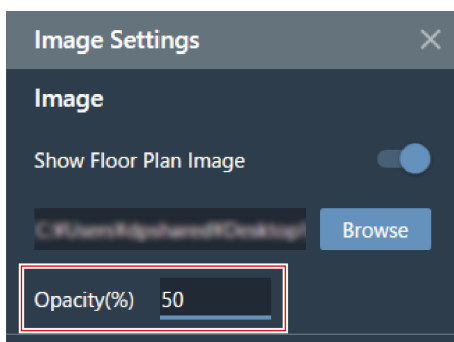
1 ツールバーの「Image」の歯車マークをクリックします。

部屋の設定



≫ コンテキストパネルに「Image Settings」が表示されます。

2 「Opacity」に透過率を入力します。

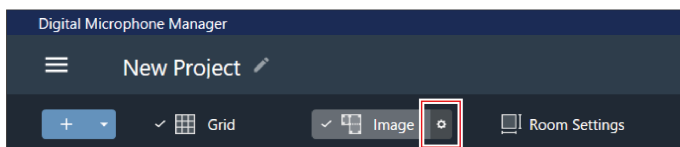


3 メインエリアをクリックする、またはEnterキーを押します。

≫ 画像の透過率が設定されます。

画像の位置・角度を設定する

1 ツールバーの「Image」の歯車マークをクリックします。



≫ コンテキストパネルに「Image Settings」が表示されます。

2 「Position」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの位置を入力します。

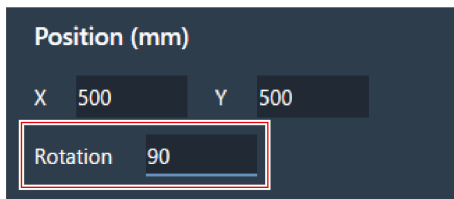
- 画像の左上の角のポイントが位置の基準になります。



部屋の設定

3 「Rotation」に画像の回転角度を入力します。

- 入力した角度で時計回りに回転します。



4 メインエリアをクリックする、またはEnterキーを押します。

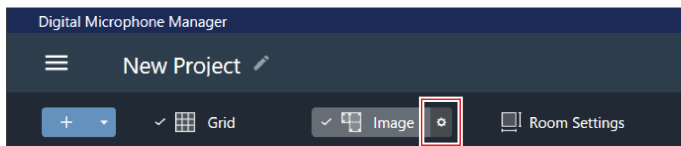
≫ 画像の位置・角度が設定されます。



- メインエリアで、画像をドラッグして位置を変更することもできます。

画像のサイズを設定する

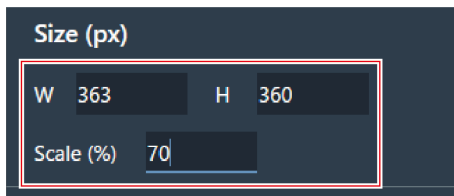
1 ツールバーの「Image」の歯車マークをクリックします。



≫ コンテキストパネルに「Image Settings」が表示されます。

2 「Size」の「W」（幅）・「H」（高さ）にピクセルサイズ、または「Scale」に拡大縮小率を入力します。

- 「W」・「H」・「Scale」のいずれかを入力すると、比率を保ってサイズが変更されます。
- 画像の幅・高さの比率を変えることはできません。



3 メインエリアをクリックする、またはEnterキーを押します。

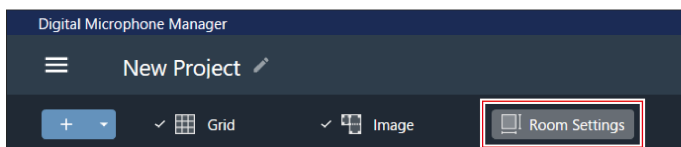
≫ 画像のサイズが設定されます。



- メインエリアで、画像の角のポイントをドラッグしてサイズを変更することもできます。

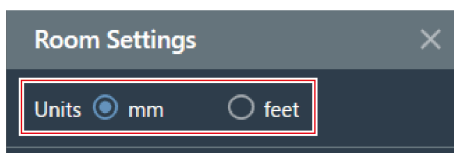
部屋のサイズ・オフセットを設定する

- 1 ツールバーの「Room Settings」をクリックします。

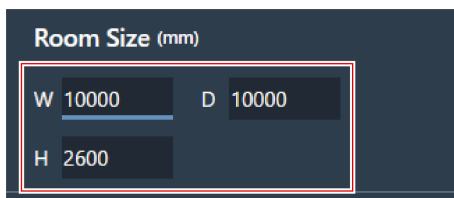


≫ コンテキストパネルに「Room Settings」が表示されます。

- 2 「Units」で単位を選択します。



- 3 「Room Size」の「W」（横幅）・「D」（奥行）・「H」（高さ）に部屋のサイズを入力します。

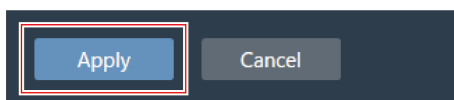


- 4 「Grid Offset」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの部屋のオフセット位置を入力します。

- オフセットは、原点からマイナス方向に移動します。例えば、5,000mmオフセットしたい場合、「-5000」と入力します。



- 5 「Apply」をクリックします。



≫ 部屋のサイズ・オフセットが設定されます。

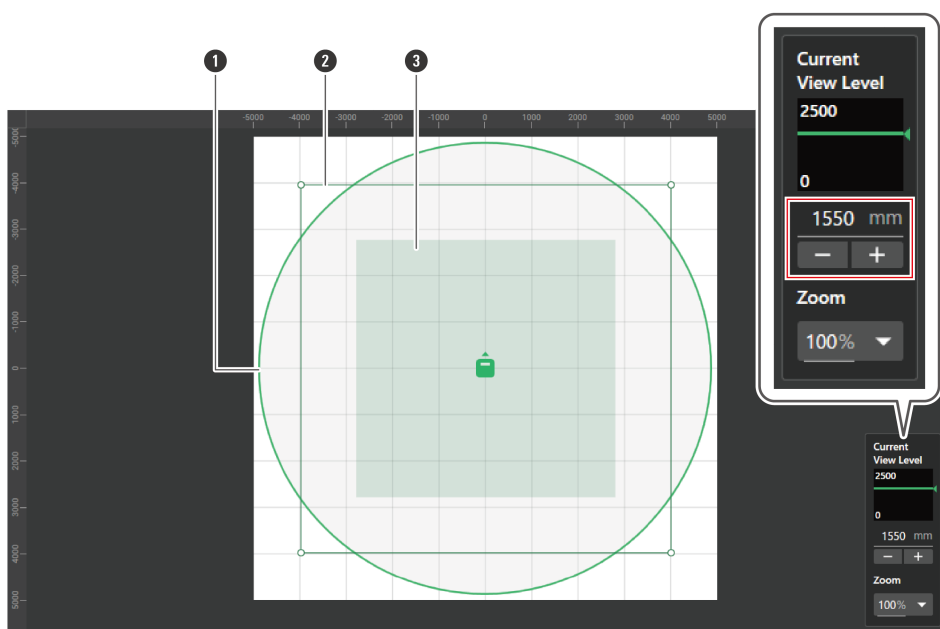
部屋のビューレベルを変更する

人が立ったときや座ったときの頭の高さに、部屋のビューレベル（表示高さ）を合わせて収音エリアを確認できます。

- ビューレベルに連動して、メインエリアに表示されている収音エリアの大きさが変わります。

1 ビューレベルコントローラーの「Current View Level」に表示高さを入力する、または「-」 / 「+」をクリックします。

- 「-」 / 「+」をクリックすると、表示高さが50mmずつ変わります。
- ビームゾーンをクリックすると、ビームゾーンを設定したときのビューレベルに戻ります。



- ① 収音エリア
- ② 設定したビームゾーン
- ③ ビューレベルでのビームゾーン

≫ 収音エリアやビームゾーンの表示が変わります。

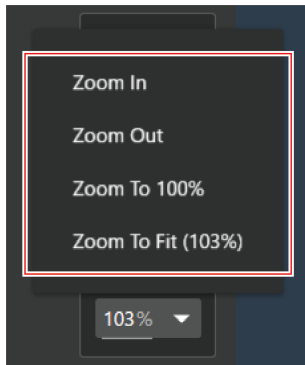
メインエリアの表示倍率を変更する

メインエリアを10%～600%の倍率で表示できます。

1 ビューレベルコントローラーの「Zoom」の赤枠部分をクリックします。



2 プルダウンから表示倍率を選択します。



項目名	説明
Zoom In	拡大表示できます。
Zoom Out	縮小表示できます。
Zoom To 100%	100%表示に戻ります。
Zoom To Fit	画面サイズに合わせて表示します。

≫ メインエリアの表示倍率が変わります。



- ビューレベルコントローラーの「Zoom」に表示倍率を直接入力して変更することもできます。
- メインエリアにカーソルを合わせ、マウスホイールを回転させて表示倍率を変更することもできます。

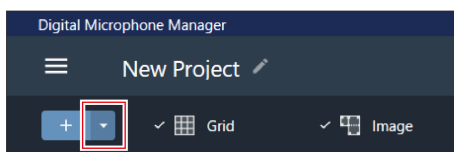
マイクロホンの追加／接続

オフラインのマイクロホンを追加する

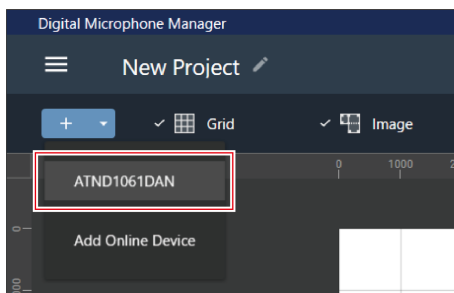
オフライン環境でマイクロホンを追加します。

- マイクロホンやビームゾーンなどが選択されているときは、メインエリアの余白部分をクリックして選択を解除してください。
- マイクロホンは、1つのプロジェクトにつき20台まで追加できます。

1 ツールバーの赤枠部分をクリックします。



2 プルダウンから追加するマイクロホンのモデル名をクリックします。



≫ メインエリアにマイクロホンが追加されます。



- ツールバーの「+」をクリックすると、最後に選択していたモデルが追加されます。

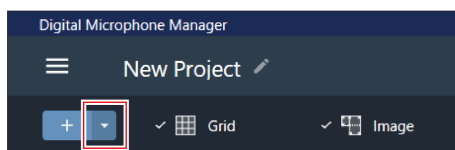
オンラインのマイクロホンを追加する

同じネットワーク内（オンライン環境）にあるマイクロホンを追加します。

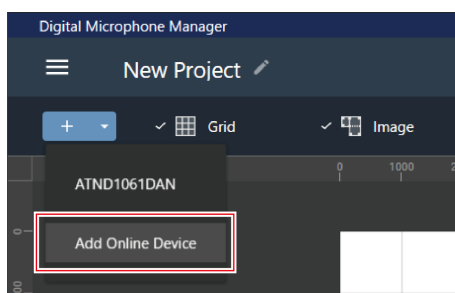
- マイクロホンやビームゾーンなどが選択されているときは、メインエリアの余白部分をクリックして選択を解除してください。
- マイクロホンは、1つのプロジェクトにつき20台まで追加できます。

1 ツールバーの赤枠部分をクリックします。

マイクロホンの追加／接続

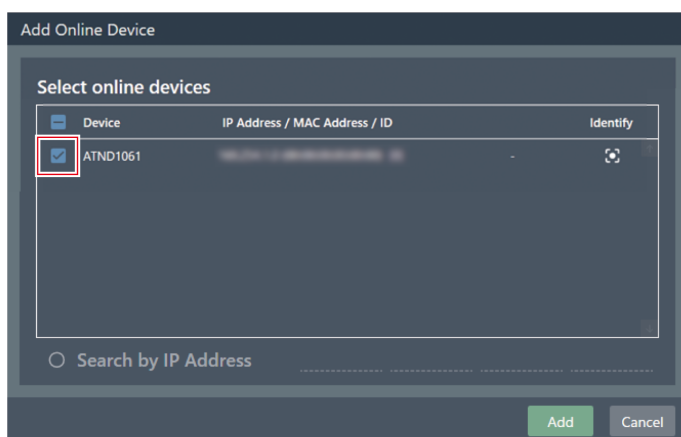


2 プルダウンの「Add Online Device」をクリックします。

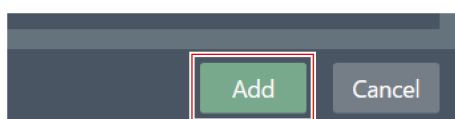


3 追加するマイクロホンのチェックボックスをクリックして選択します。

- 一番上のチェックボックスで一括選択／選択解除ができます。
- 「Search by IP Address」をクリックして、IPアドレスでオンラインのマイクロホンを追加することもできます。



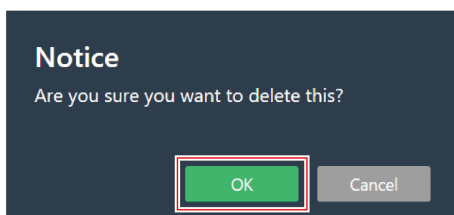
4 「Add」をクリックします。



≫ メインエリアにマイクロホンが追加されます。

マイクロホンを削除する

- 1 メインエリアでマイクロホンを選択します。
- 2 Deleteキーを押します。
- 3 メッセージの「OK」をクリックします。



≫ マイクロホンが削除されます。

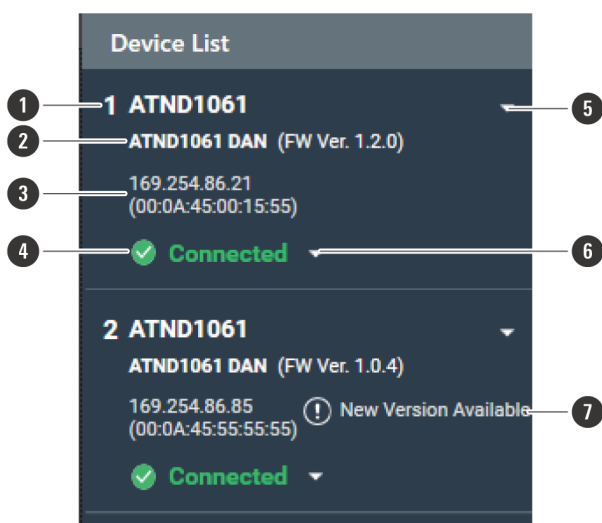


- デバイスリストのデバイスリストメニューの「Delete Device」で選択したマイクロホンを削除することもできます。

デバイスリストの見かた

メインエリアで何も選択されていない状態のとき、コンテキストパネルに「Device List」が表示されます。

- デバイスリストをクリックすると、マイクロホンが選択されます。



- 1 マイクロホン名
マイクロホン名を表示します。

マイクロホンの追加／接続

② モデル名／ファームウェアバージョン

マイクロホンのモデル名とファームウェアバージョンを表示します。

③ IPアドレス／MACアドレス

マイクロホンのIPアドレスとMACアドレスを表示します。

④ マイクロホン接続ステータス

マイクロホンの接続状態を表示します。

Connected：正常に接続できています。

Disconnected：マイクロホンと接続していません。

Missing：接続エラーが起きています。

Power Save：パワーセーブモード（省電力モード）で接続しています。

⑤ デバイスリストメニュー

クリックすると、デバイスリストメニューを選択することができます。

⑥ 接続メニュー

クリックすると、マイクロホンの接続状態を変更することができます。

Connect：マイクロホンと接続します。アプリケーションからマイクロホンに設定を反映させる際、プリセットの保存に数分かかる場合があります。

Disconnect：マイクロホンとの接続を解除します。

Reconnect：Missing状態のマイクロホンと再接続します。

Power Save Mode：パワーセーブモード（省電力モード）で接続します。

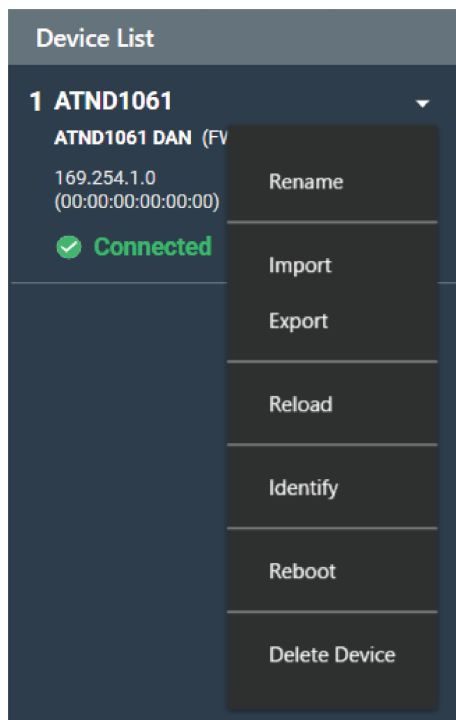
⑦ ファームウェア更新

マイクロホンのファームウェアを更新できる場合に表示します。Settings & Maintenance画面の「System Settings」>「Utilities」>「Firmware Update」(p.95)でファームウェアのアップデートを行ってください。



- パワーセーブモード（省電力モード）状態時は、オンラインデバイスに対するすべての操作ができなくなります。

デバイスリストメニューでできること



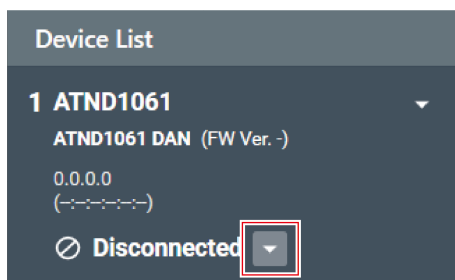
デバイスリストメニュー	説明
Rename	マイクロホンの名前を変更します。
Import	マイクロホンの情報をファイルから読み込みます。
Export	マイクロホンの情報をファイルに出力します。
Reload	同じネットワーク内にあるマイクロホンの情報を読み込みます。
Identify	マイクロホンのインジケータが点滅します。
Reboot	マイクロホンを再起動します。
Delete Device	マイクロホンを削除します。

マイクロホンを接続する

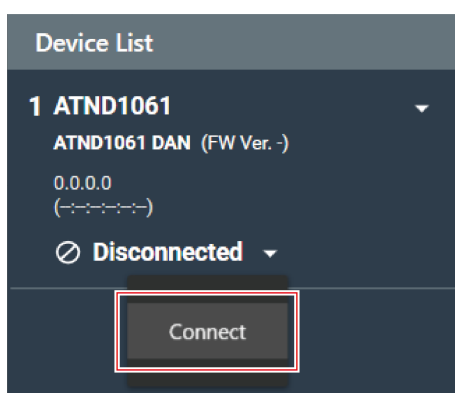
オフラインのマイクロホンと、実際に設置したマイクロホンを接続してマイクロホン設定を同期します。

- 1 マイクロホンやビームゾーンなどの選択を解除します。
≫ コンテキストパネルに「Device List」が表示されます。
- 2 接続メニューの赤枠部分をクリックします。

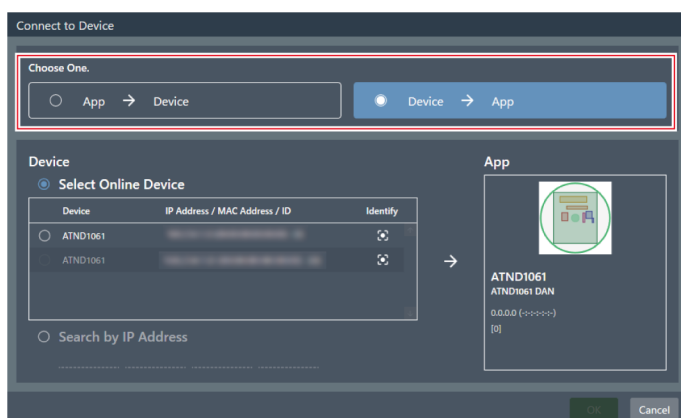
マイクロホンの追加／接続



- ### 3 プルダウンの「Connect」をクリックします。



- #### 4 「Choose One.」で反映させたい設定情報を選択します。

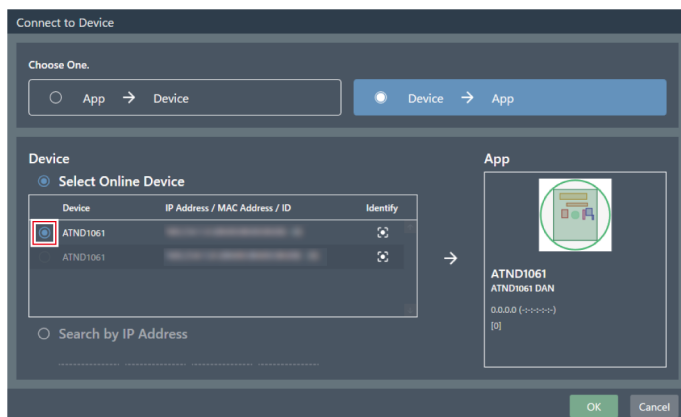


項目名	説明
App → Device	アプリケーションの設定情報をマイクロホンに反映します。
Device → App	マイクロホンの設定情報をアプリケーションに反映します。

- 5** 「Device」で接続したいマイクロホンを選択します。

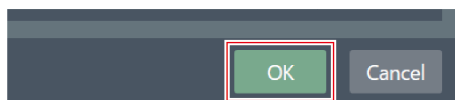
マイクロホンの追加／接続

- 「Device」には同じネットワーク上にあるマイクロホンのみが表示されます。
- 「Identify」のアイコンをクリックして接続したいマイクロホンに設定しているか確認できます。



6 「OK」をクリックします。

- アプリケーションからマイクロホンに設定を反映させる際、プリセットの保存に数分かかる場合があります。

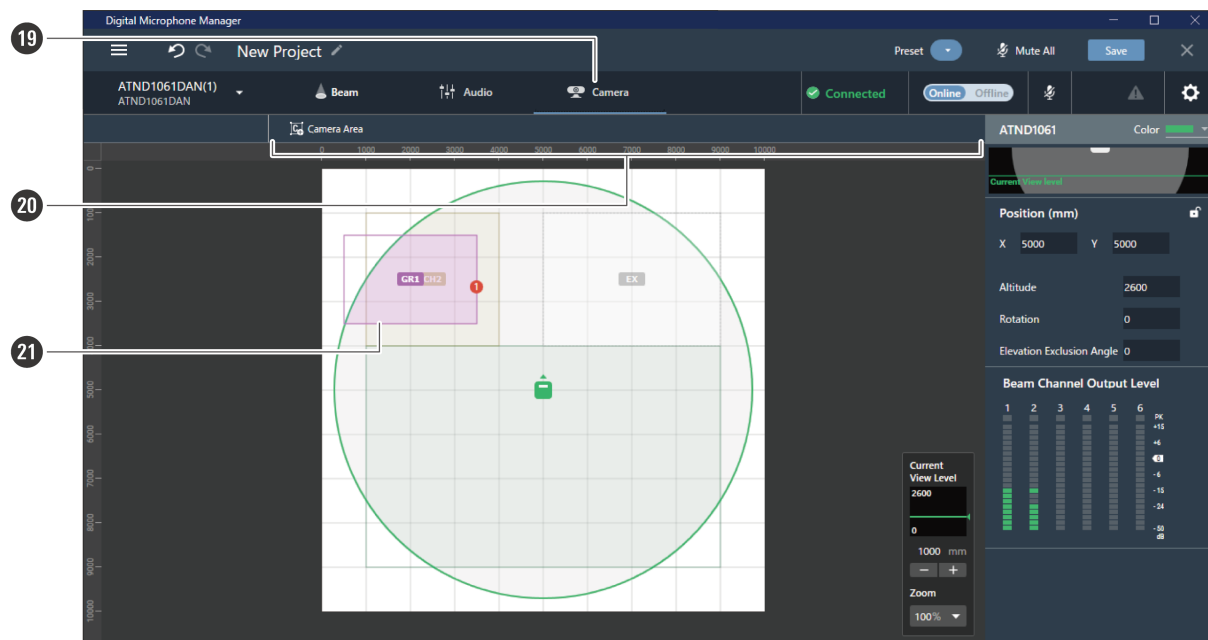
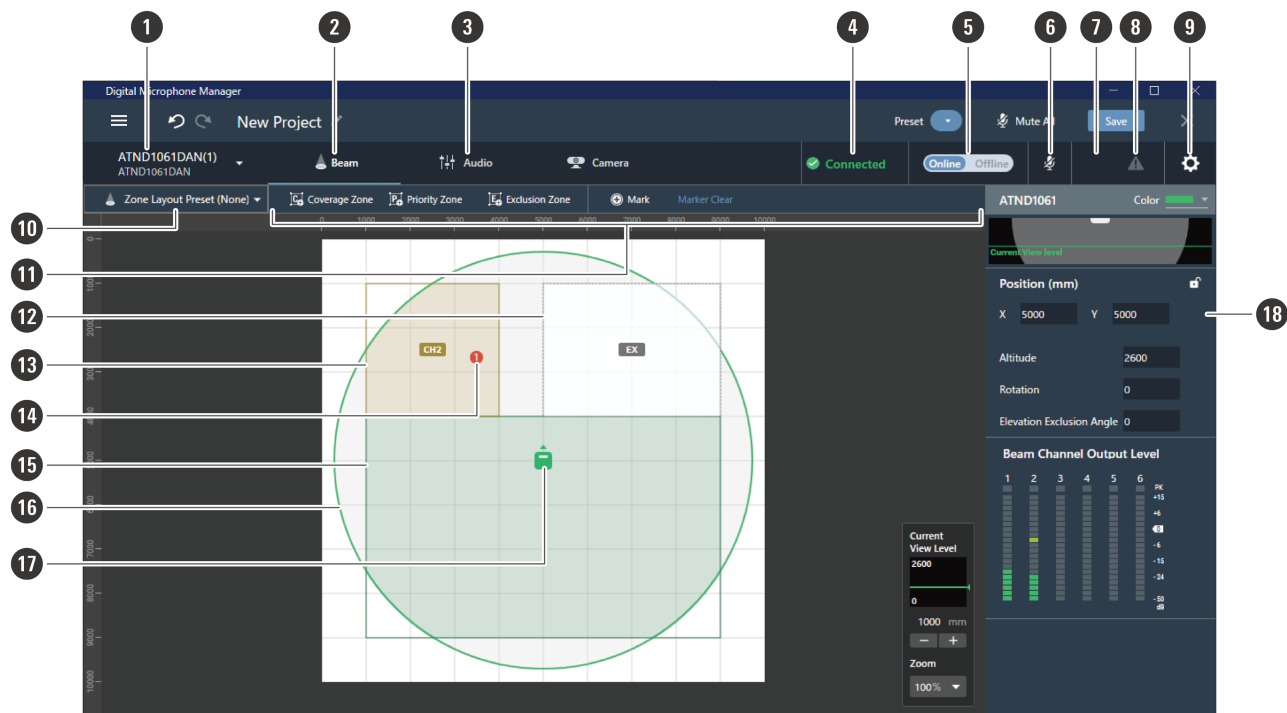


≫ マイクロホンと接続すると、マイクロホン接続ステータスが「Connected」に変わります。

マイクロホン設定

マイクロホン設定画面の見かた

マイクロホンを選択すると、マイクロホン設定画面に切り替わります。



1 マイクロホン名・モデル名

マイクロホン名・モデル名を表示します。マイクロホン名はデバイスリストメニューの「Rename」で変更できます。クリックすると、マイクロホンの選択を切り替えることができます。

マイクロホン設定

2 Beamタブ

クリックすると、マイクロホンのビームゾーン設定の表示に切り替わります。

3 Audioタブ

クリックすると、マイクロホンのオーディオ設定の表示に切り替わります。

4 マイクロホン接続ステータス

マイクロホンの接続状態を表示します。

Connected：正常に接続できています。

Disconnected：マイクロホンと接続していません。

Missing：接続エラーが起きています。

Power Save：パワーセーブモード（省電力モード）で接続しています。

5 Online/Offline

クリックすると、オンラインのマイクロホンの接続を一時的にオフラインにします。再度クリックすると、オンラインに切り替わります。反映させる設定情報を選び「OK」をクリックします。アプリケーションからマイクロホンに設定を反映させる際、プリセットの保存に数分かかる場合があります。

6 ミュート

クリックするたびに、マイクロホンのミュート／ミュート解除が切り替わります。

7 Audio-Technica LINKステータス（ATND1061LKのみ）

Audio-Technica LINKの接続状態を表示します。



：Audio-Technica LINKが正しく接続されていません。



：Audio-Technica LINKが正しく接続されています。

8 エラーステータス

エラーの状態を表示します。



：エラーがありません。



：エラーがあります。アイコンの下の方三角マークをクリックすると、エラー内容が表示されます。エラー内容を確認したあと、アイコンからカーソルを離すと、三角マークは表示されなくなります。

9 Settings & Maintenance

マイクロホンのSettings & Maintenance画面を表示します。

10 Zone Layout Preset

クリックすると、選択しているマイクロホンのゾーンレイアウトプリセットを選択できます。詳しくは、「ゾーンレイアウトプリセットについて」(p.53)を確認してください。

11 Beamツールバー

「Beam」を選択すると、ツールバーが表示されます。

12 エクスクルージョンゾーン

エクスクルージョンゾーンに設定した範囲です。「EX」が表示されます。

13 プライオリティゾーン

プライオリティゾーンに設定した範囲です。「CH2」～「CH6」が表示されます。

14 ポジションマーカー

ポジションマーカーでマーキングした位置です。マーキングした順に番号が表示されます。

マイクロホン設定

15 カバレッジゾーン

カバレッジゾーンに設定した範囲です。

16 收音エリア

マイクロホンが音声を認識して、收音できるエリアを表示します。收音エリアの大きさは、マイクロホンの設置高さ・收音角度・ビュールレベルの設定に連動します。

17 マイクロホンアイコン

マイクロホンの設置位置を表示します。

18 コンテキストパネル

マイクロホン設定が表示されます。

19 Cameraタブ

クリックすると、マイクロホンのカメラエリア設定の表示に切り替わります。

20 Cameraツールバー

「Camera」を選択すると、ツールバーが表示されます。

21 カメラエリア

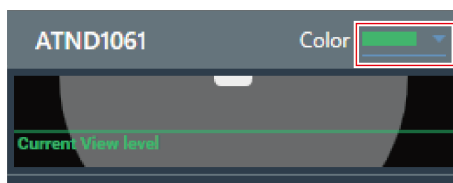
カメラエリアに設定した範囲です。グループ番号「GR1」～「GR8」が表示されます。カメラエリアは、「Camera」をクリックしてカメラエリア設定の表示に切り替わっている時のみに表示されます。

マイクロホンの表示カラーを設定する

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

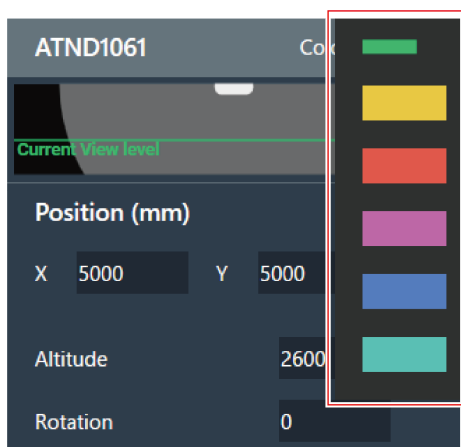
≫ コンテキストパネルにマイクロホン設定が表示されます。

2 「Color」の赤枠部分をクリックします。



3 プルダウンから表示カラーを選択します。

マイクロホン設定



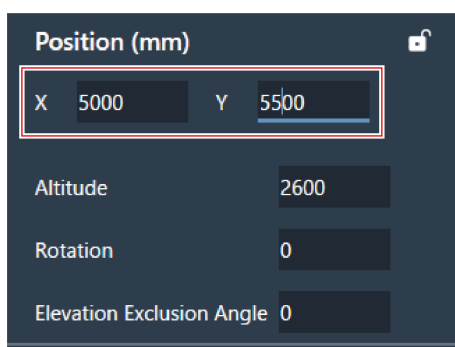
≫ マイクロホンの表示カラーが設定されます。

マイクロホンの位置・方向を設定する

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

≫ コンテキストパネルにマイクロホン設定が表示されます。

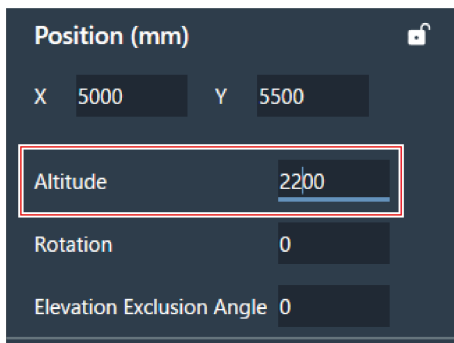
2 「Position」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの位置を入力します。



3 「Altitude」に床からの設置高さを入力します。

- マイクロホンの設置高さは、部屋の高さよりも高く設定できません。部屋の高さよりも高い数値を入力すると、メッセージが表示され、マイクロホンの設置高さに合わせて部屋の高さの設定も変更されます。

マイクロホン設定



Position (mm)

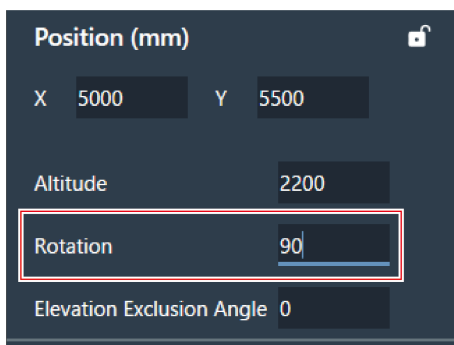
X 5000 Y 5500

Altitude 2200

Rotation 0

Elevation Exclusion Angle 0

4 「Rotation」にマイクロホンの回転角度を入力します。



Position (mm)

X 5000 Y 5500

Altitude 2200

Rotation 90

Elevation Exclusion Angle 0

5 メインエリアをクリックする、またはEnterキーを押します。

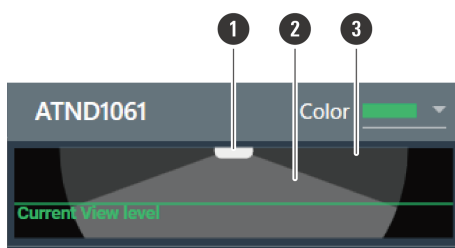
≫ マイクロホンの位置・方向が設定されます。



- メインエリアには部屋やマイクロホンを上から見下ろした状態で表示されます。実際に天井に設置したマイクロホンは見上げる状態になるため、マイクロホンの移動方向・回転方向が逆になります。
- メインエリアで、マイクロホンアイコンをドラッグして位置を変更することもできます。

マイクロホンの收音エリア角度を設定する

マイクロホンを中心に半球状に收音します。收音エリア角度を設定することで、天井付近に設置されているエアコンなどからの音を拾わないようにします。



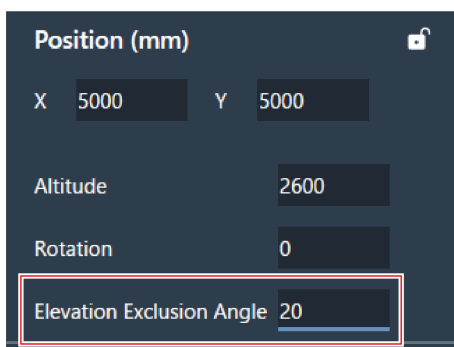
マイクロホン設定

- ① マイクロホン
- ② 收音エリア
- ③ 收音エリア外

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

≫ コンテキストパネルにマイクロホン設定が表示されます。

2 「Elevation Exclusion Angle」にマイクロホンの收音エリア角度を入力します。



3 メインエリアをクリックする、またはEnterキーを押します。

- すでに設定されているビームゾーンや、カメラエリアの角にあるすべてのポイントが、收音エリアから外れる角度には設定できません。

≫ 收音エリア角度の設定に連動して、メインエリアに表示されている收音エリアの大きさが変わります。

マイクロホンをロックする

マイクロホンの位置・設置高さ・方向・收音エリア角度を変更できないようロックします。

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

≫ コンテキストパネルにマイクロホン設定が表示されます。

2 鍵マークをクリックします。

- クリックするたびに、マイクロホンのロック／ロック解除が切り替わります。

マイクロホン設定



≫ マイクロホンがロックされます。

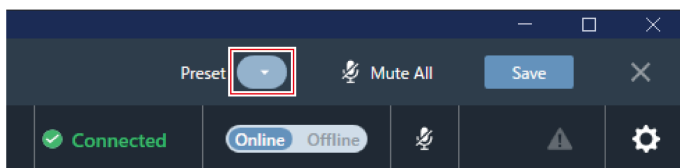
プリセットについて

ビームゾーン・オーディオ・カメラエリア・Settings & Maintenanceの一部の設定を、プリセットとして最大16個まで保存できます。使用シーンによって設定を切り替えることができます。

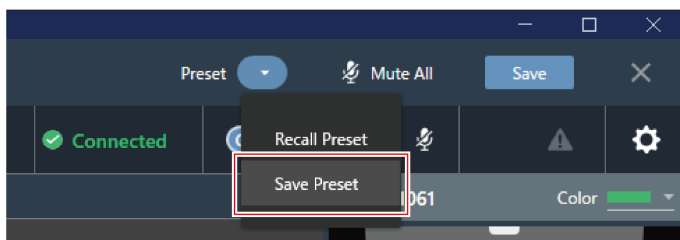
プリセットを保存する

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

2 Presetの赤枠部分をクリックします。

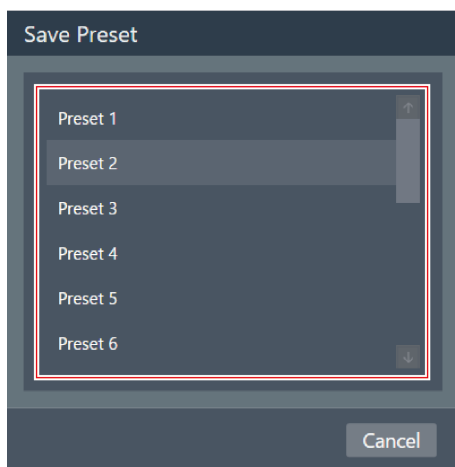


3 プルダウンの「Save Preset」をクリックします。



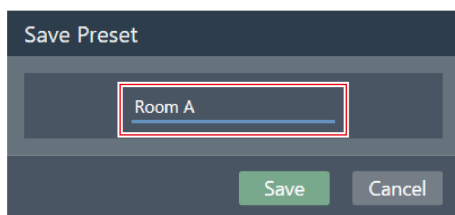
4 保存したいプリセットのスロットをクリックします。

マイクロホン設定



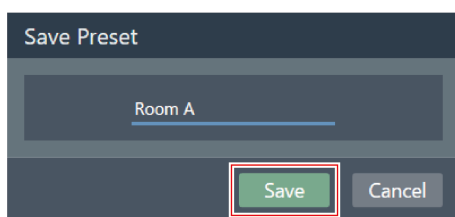
5 名前を入力します。

- 名前をクリックすると、入力できます。



6 「Save」をクリックします。

- マイクロホンがオンラインのとき、プリセットの保存に数分かかる場合があります。



≫ 選択しているマイクロホンの設定がプリセットに保存されます。



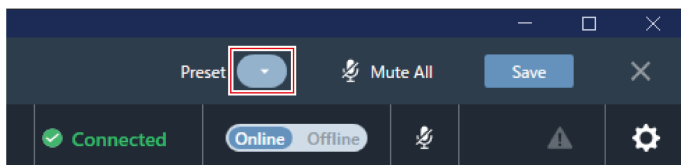
- プリセットはマイクロホンごとに保存されます。
- プリセットの書き出し・読み込みについては、Settings & Maintenanceの「Presets」(p.96)を確認してください。

マイクロホン設定

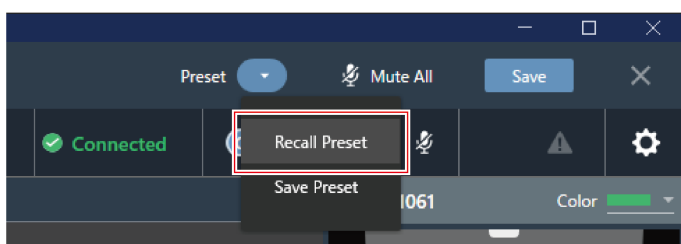
プリセットを呼び出す

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

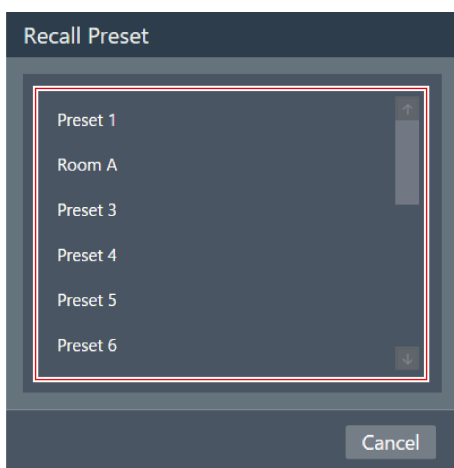
2 Presetの赤枠部分をクリックします。



3 プルダウンの「Recall Preset」をクリックします。



4 呼び出したいプリセットをクリックします。



≫ 選択しているマイクロホンにプリセットの設定が反映されます。

ビームゾーン設定

カバレッジゾーンを設定する

カバレッジゾーンを追加する

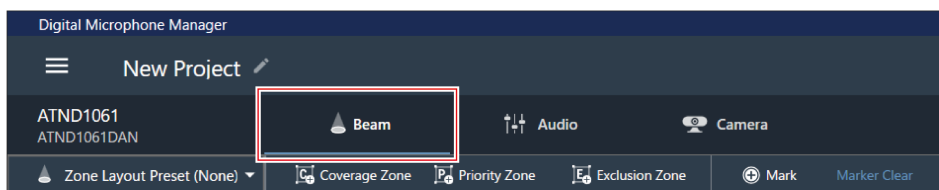
カバレッジゾーンで収音された音声は、Coverageチャンネル（CH1）から出力されます。

- 複数の話者の音声を1つのチャンネルから出力する場合に使用します。
- カバレッジゾーンは、1つのマイクロホンにつき16箇所まで設定できます。

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

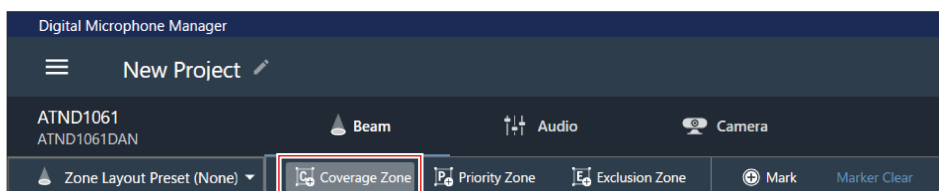
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Beam」をクリックします。



3 「Coverage Zone」をクリックします。

- クリックするたびに、カバレッジゾーン追加モードのON/OFFが切り替わります。
- 収音エリア内で右クリックまたはキーボードのEscキーを押すと、カバレッジゾーン追加モードをOFFにすることができます。

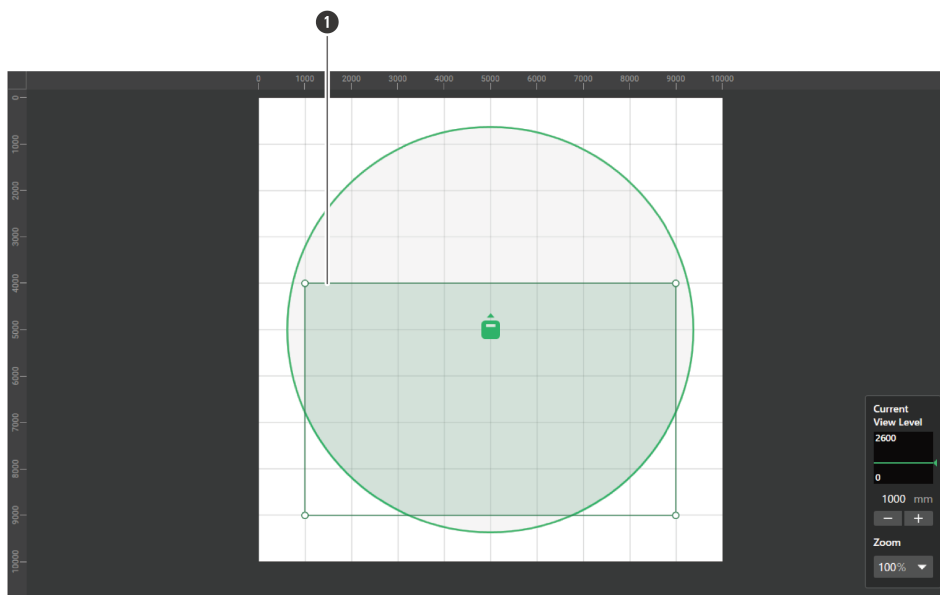


≫ カバレッジゾーン追加モードになります。

4 収音エリア内でドラッグしてカバレッジゾーンを追加します。

- 収音エリア外には、カバレッジゾーンを追加できません。

ビームゾーン設定

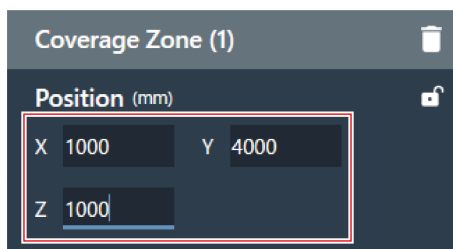


1 カバレッジゾーン

≫ 追加したカバレッジゾーンが選択状態になり、コンテキストパネルに「Coverage Zone」が表示されます。

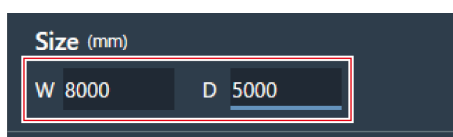
5 カバレッジゾーンの位置を調整します。

- 「Position」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの位置、「Z」に床からの高さを入力します。
- メインエリアで、カバレッジゾーンをドラッグして位置を変更することもできます。



6 カバレッジゾーンのサイズを調整します。

- 「Size」の「W」（幅）・「D」（奥行）に、カバレッジゾーンのサイズを入力します。
- メインエリアで、カバレッジゾーンの角のポイントをドラッグしてサイズを変更することもできます。

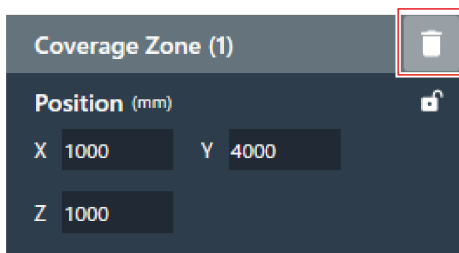


- 他のビームゾーンと重ねて設定することができますが、次の優先順位で有効になります。
エクスクルージョンゾーン → プライオリティゾーン → カバレッジゾーン
- ビームゾーンを重ねて設定している場合、Ctrlキーを押しながらクリックすると、重なっている下のゾーンを選択することができます。

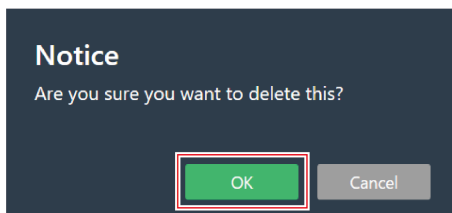
ビームゾーン設定

カバレッジゾーンを削除する

- 1 メインエリアでカバレッジゾーンを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Coverage Zone」が表示されます。
- 2 ゴミ箱マークをクリックする、またはDeleteキーを押します。



- 3 メッセージの「OK」をクリックします。



≫ カバレッジゾーンが削除されます。

カバレッジゾーンをロックする

カバレッジゾーンの位置・サイズを変更できないようロックします。

- 1 メインエリアでカバレッジゾーンを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Coverage Zone」が表示されます。
- 2 鍵マークをクリックします。
 - クリックするたびに、カバレッジゾーンのロック／ロック解除が切り替わります。

ビームゾーン設定



≫ カバレッジゾーンがロックされます。

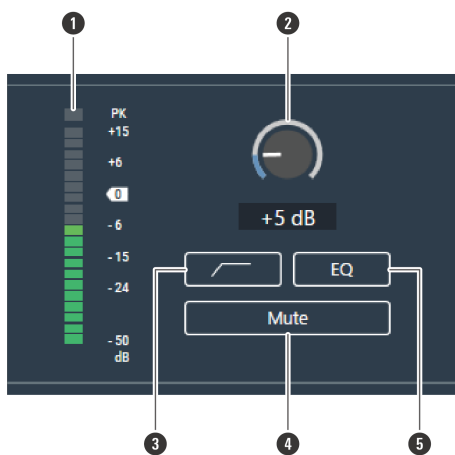
カバレッジゾーンの音声入力レベルを設定する

1 メインエリアでカバレッジゾーンを選択します。

≫ コンテキストパネルに「Coverage Zone」が表示されます。

2 カバレッジゾーンの音声入力レベルを設定します。

- カバレッジゾーンの出力はCH1のみのため、複数のカバレッジゾーンがある場合も、すべて同じ設定になります。



- 音声入力レベルを表示します。
- 音声入力の入力ゲインを設定します。メーターをドラッグ（縦方向）してゲインを調整します。
- クリックするたびに、入力音声の低域のカットのON（青色）／OFF（色なし）を切り替えます。
- クリックするたびに、音声入力のミュート（青色）／ミュート解除（色なし）を切り替えます。
- クリックするたびに、音声入力に適用する4バンドEQのON（青色）／OFF（色なし）を切り替えます。

プライオリティゾーンを設定する

プライオリティゾーンを追加する

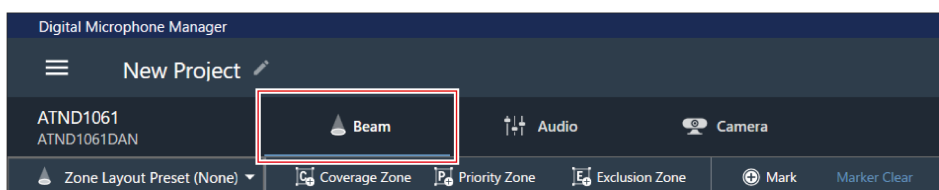
プライオリティゾーンで収録された音声は、Priority1～Priority5チャンネル（CH2～CH6）から出力されます。

- 特定の話者の音声を1つのチャンネルから出力する場合に使用します。
- すべてのチャンネルが埋まっている場合は、CH6に割り当てられます。
- プライオリティゾーンは、1つのマイクロホンにつき16箇所まで設定できます。

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

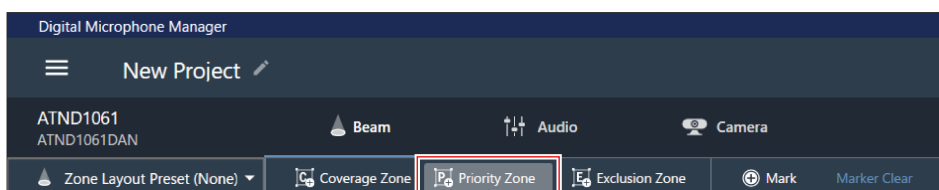
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Beam」をクリックします。



3 「Priority Zone」をクリックします。

- クリックするたびに、プライオリティゾーン追加モードのON/OFFが切り替わります。
- 収録エリア内で右クリックまたはキーボードのEscキーを押すと、プライオリティゾーン追加モードをOFFにすることができます。

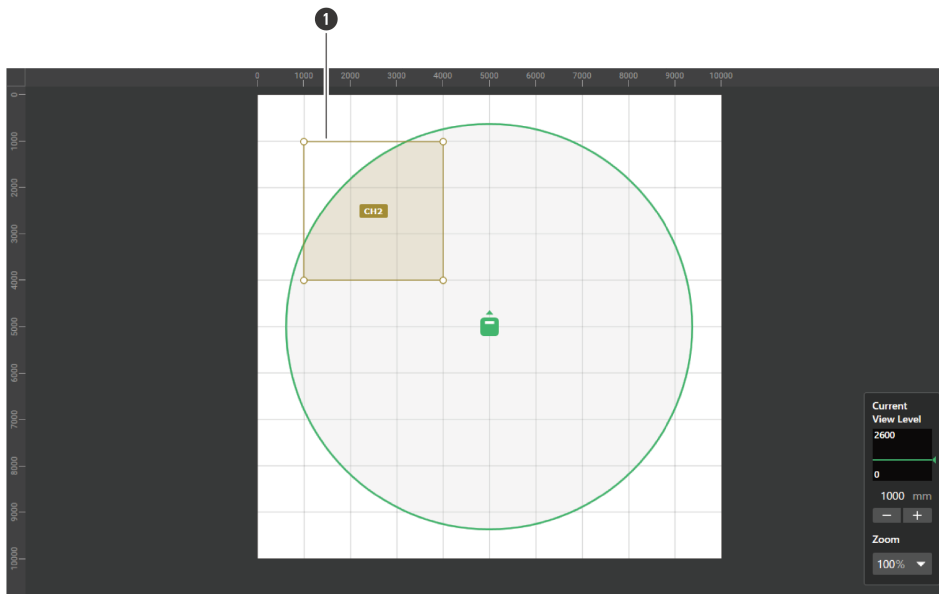


≫ プライオリティゾーン追加モードになります。

4 収録エリア内でドラッグしてプライオリティゾーンを追加します。

- 収録エリア外には、プライオリティゾーンを追加できません。
- プライオリティゾーン同士を重ねて追加することはできません。

ビームゾーン設定

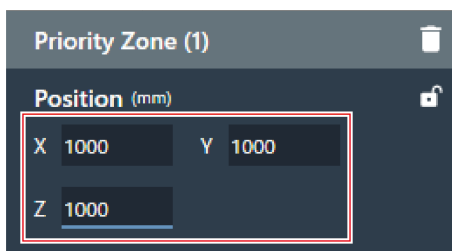


① プライオリティゾーン

≫ 追加したプライオリティゾーンが選択状態になり、コンテキストパネルに「Priority Zone」が表示されます。

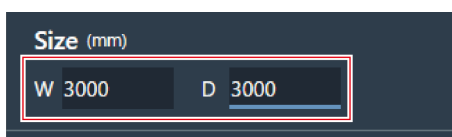
5 プライオリティゾーンの位置を調整します。

- ・ 「Position」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの位置、「Z」に床からの高さを入力します。
- ・ メインエリアで、プライオリティゾーンをドラッグして位置を変更することもできます。



6 プライオリティゾーンのサイズを調整します。

- ・ 「Size」の「W」（幅）・「D」（奥行）にプライオリティゾーンのサイズを入力します。
- ・ メインエリアで、プライオリティゾーンの角のポイントをドラッグしてサイズを変更することもできます。



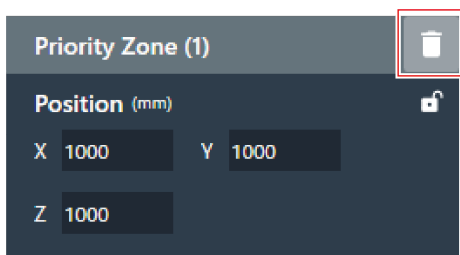
ビームゾーン設定



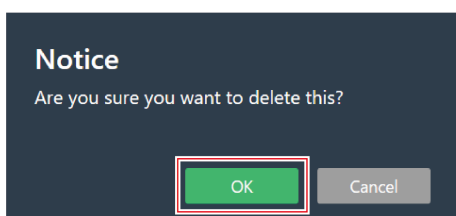
- 他のビームゾーンと重ねて設定することができますが、次の優先順位で有効になります。
エクスクルージョンゾーン → プライオリティゾーン → カバレッジゾーン
- ビームゾーンを重ねて設定している場合、Ctrlキーを押しながらクリックすると、重なっている下のゾーンを選択することができます。

プライオリティゾーンを削除する

- 1 メインエリアでプライオリティゾーンを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Priority Zone」が表示されます。
- 2 ゴミ箱マークをクリックする、またはDeleteキーを押します。



- 3 メッセージの「OK」をクリックします。



≫ プライオリティゾーンが削除されます。

プライオリティゾーンをロックする

プライオリティゾーンの位置・サイズを変更できないようロックします。

- 1 メインエリアでプライオリティゾーンを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Priority Zone」が表示されます。
- 2 鍵マークをクリックします。

ビームゾーン設定

- クリックするたびに、プライオリティゾーンのロック／ロック解除が切り替わります。



The image shows a settings panel titled "Priority Zone (1)". It contains fields for Position (mm) with X, Y, and Z coordinates, and Size (mm) with W and D dimensions. A red box highlights a lock icon in the top right corner of the panel.

≫ プライオリティゾーンがロックされます。

音声出力チャンネルを変更する

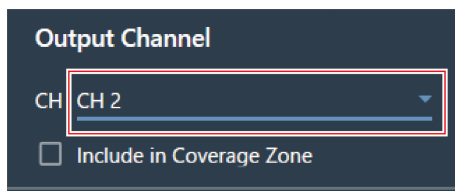
プライオリティゾーンに割り当てられた出力チャンネルを変更します。

- プライオリティゾーンはCH2～CH6に割り当てることができます。
- 同一出力チャンネルに複数のプライオリティゾーンを割り当てすることもできます。この場合、割り当てられたプライオリティゾーンを1本のビームでカバーします（音声が最も大きいゾーンにビームが向きます）。
- プライオリティゾーンの音声出力チャンネルをCH1出力（カバレッジゾーン）に含めることができます。会議全体の音声を1つのチャンネルから出力したい場合などに利用します。この場合は、「Include in Coverage Zone」のチェックボックスをクリックしてONにします。この機能を使用するには、カバレッジゾーンがCH1出力に送りたいプライオリティゾーンと重なっている必要があります。チェックマークが入っていない場合は、CH1出力（カバレッジゾーン）からプライオリティゾーンは除外されます。

1 メインエリアでプライオリティゾーンを選択します。

≫ コンテキストパネルに「Priority Zone」が表示されます。

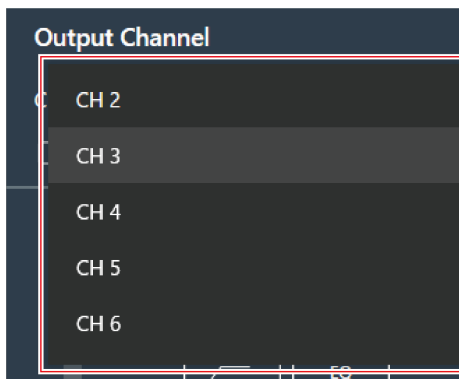
2 「Output Channel」の「CH」の赤枠部分をクリックします。



The image shows a settings panel titled "Output Channel". It has a dropdown menu labeled "CH" with "CH 2" selected. Below it is a checkbox labeled "Include in Coverage Zone". A red box highlights the "CH" dropdown menu.

3 プルダウンから音声出力チャンネルを選択します。

ビームゾーン設定



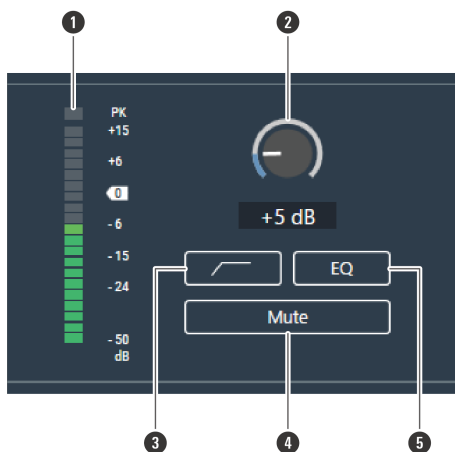
≫ プライオリティゾーンの音声出力チャンネルが変更されます。

プライオリティゾーンの音声入力レベルを設定する

1 メインエリアでプライオリティゾーンを選択します。

≫ コンテキストパネルに「Priority Zone」が表示されます。

2 プライオリティゾーンの音声入力レベルを設定します。



① 音声入力レベルを表示します。

② 音声入力の入力ゲインを設定します。メーターをドラッグ（縦方向）してゲインを調整します。

③ クリックするたびに、入力音声の低域のカットのON（青色）／OFF（色なし）を切り替えます。

④ クリックするたびに、音声入力のミュート（青色）／ミュート解除（色なし）を切り替えます。

⑤ クリックするたびに、音声入力に適用する4バンドEQのON（青色）／OFF（色なし）を切り替えます。

エクスクルージョン（收音除外）ゾーンを設定する

エクスクルージョンゾーンを追加する

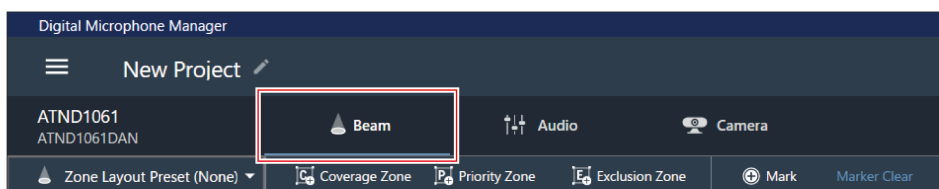
エアコンやプロジェクターからのノイズ音など音声を收音しないエリアを設定します。

- エクスクルージョンゾーンは、1つのマイクロホンにつき16箇所まで設定できます。

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

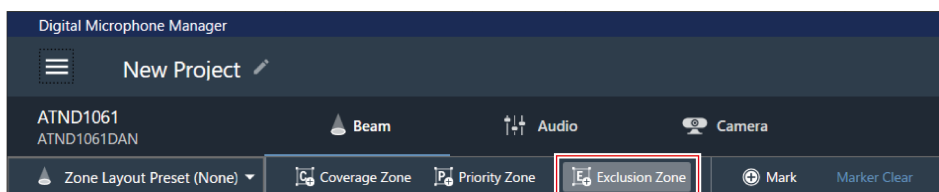
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Beam」をクリックします。



3 「Exclusion Zone」をクリックします。

- クリックするたびに、エクスクルージョンゾーン追加モードのON/OFFが切り替わります。
- 收音エリア内で右クリックまたはキーボードのEscキーを押すと、エクスクルージョンゾーン追加モードをOFFにすることができます。

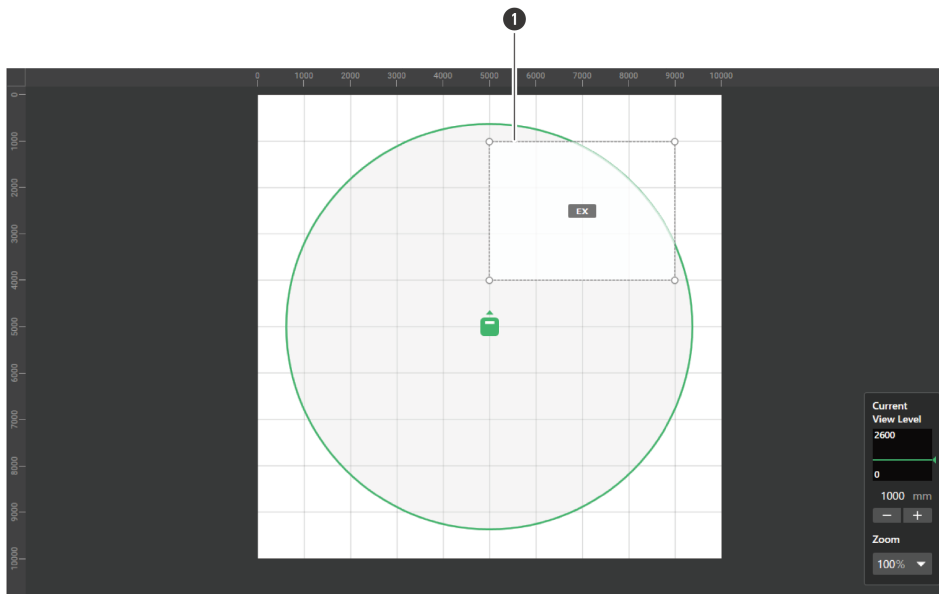


≫ エクスクルージョンゾーン追加モードになります。

4 收音エリア内でドラッグしてエクスクルージョンゾーンを追加します。

- 收音エリア外には、エクスクルージョンゾーンを追加できません。

ビームゾーン設定

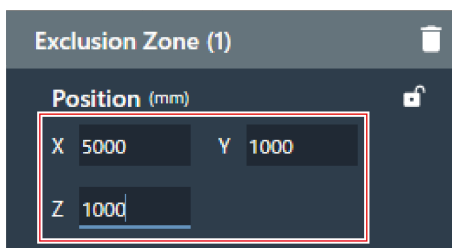


① エクスクルージョンゾーン

≫ 追加したエクスクルージョンゾーンが選択状態になり、コンテキストパネルに「Exclusion Zone」が表示されます。

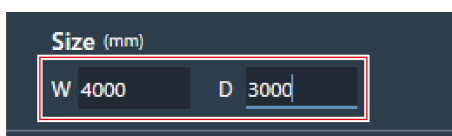
5 エクスクルージョンゾーンの位置を調整します。

- ・「Position」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの位置、「Z」に床からの高さを入力します。
- ・メインエリアで、エクスクルージョンゾーンをドラッグして位置を変更することもできます。



6 エクスクルージョンゾーンのサイズを調整します。

- ・「Size」の「W」（幅）・「D」（奥行）にエクスクルージョンゾーンのサイズを入力します。
- ・メインエリアで、エクスクルージョンゾーンの角のポイントをドラッグしてサイズを変更することもできます。



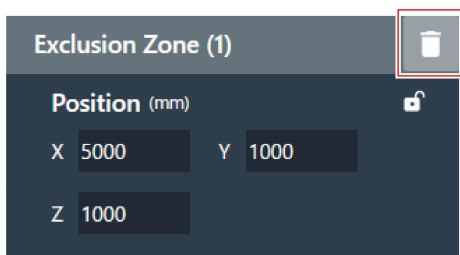
ビームゾーン設定



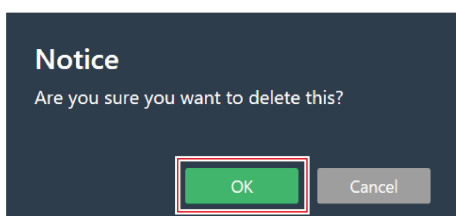
- 他のビームゾーンと重ねて設定することができますが、次の優先順位で有効になります。
エクスクルージョンゾーン → プライオリティゾーン → カバレッジゾーン
- ビームゾーンを重ねて設定している場合、Ctrlキーを押しながらクリックすると、重なっている下のゾーンを選択することができます。

エクスクルージョンゾーンを削除する

- 1 メインエリアでエクスクルージョンゾーンを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Exclusion Zone」が表示されます。
- 2 ゴミ箱マークをクリックする、またはDeleteキーを押します。



- 3 メッセージの「OK」をクリックします。



≫ エクスクルージョンゾーンが削除されます。

エクスクルージョンゾーンをロックする

エクスクルージョンゾーンの位置・サイズを変更できないようロックします。

- 1 メインエリアでエクスクルージョンゾーンを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Exclusion Zone」が表示されます。
- 2 鍵マークをクリックします。

ビームゾーン設定

- クリックするたびに、エクスクルージョンゾーンのロック／ロック解除が切り替わります。



≫ エクスクルージョンゾーンがロックされます。

ゾーンレイアウトプリセットについて

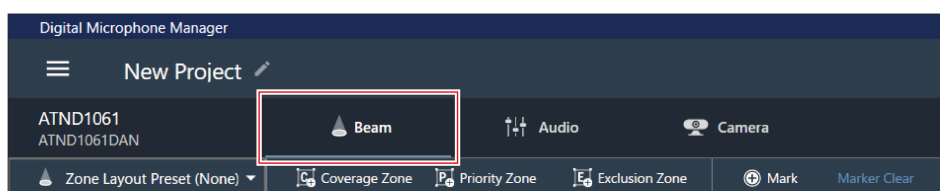
ビームゾーンとカメラエリアの設定をゾーンレイアウトプリセットとして最大10個まで保存することができます。プリセットを作成するときのテンプレートとして使うと便利です。

ゾーンレイアウトプリセットを保存する

- 1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

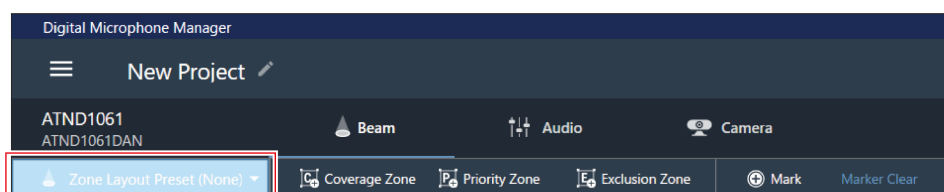
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

- 2 「Beam」をクリックします。



- 3 「Zone Layout Preset (None)」をクリックします。

- 「Zone Layout Preset (None)」には、選択しているゾーンレイアウトプリセットの名前が表示されます。

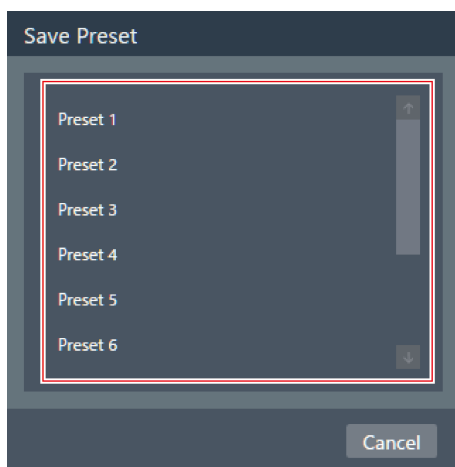


ビームゾーン設定

4 「Save Zone Layout Preset」をクリックします。

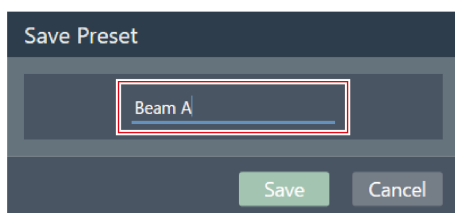


5 保存したいゾーンレイアウトプリセットのスロットをクリックします。



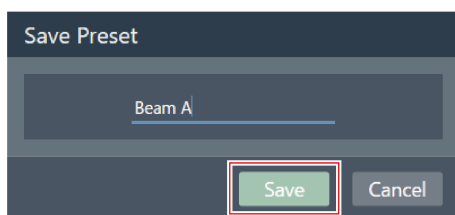
6 名前を入力します。

- 名前をクリックすると、入力できます。



ビームゾーン設定

7 「Save」をクリックします。



≫ 選択しているマイクロホンのビームゾーンとカメラエリアの設定がゾーンレイアウトプリセットに保存されます。



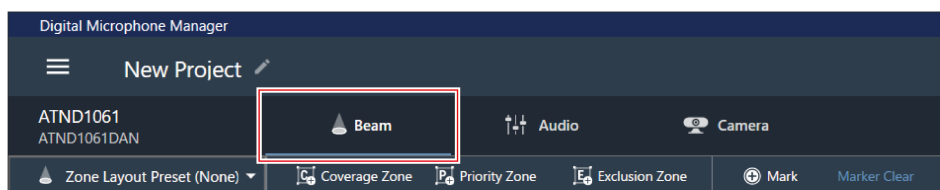
- ゾーンレイアウトプリセットはアプリケーションに保存されますので、別のプロジェクトでも使うことができます。
- ゾーンレイアウトプリセットの書き出し・読み込みについては、「Zone Layout Library (Presets)」(p.106)を確認してください。

ゾーンレイアウトプリセットを呼び出す

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

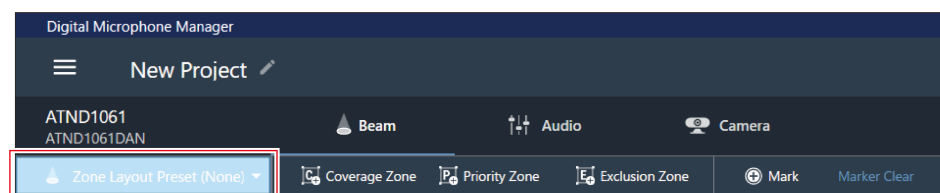
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Beam」をクリックします。



3 「Zone Layout Preset (None)」をクリックします。

- 「Zone Layout Preset (None)」には、選択しているゾーンレイアウトプリセットの名前が表示されます。



4 呼び出したいゾーンレイアウトプリセットをクリックします。

ビームゾーン設定



≫ 選択しているマイクロホンにゾーンレイアウトプリセットの設定が反映されます。

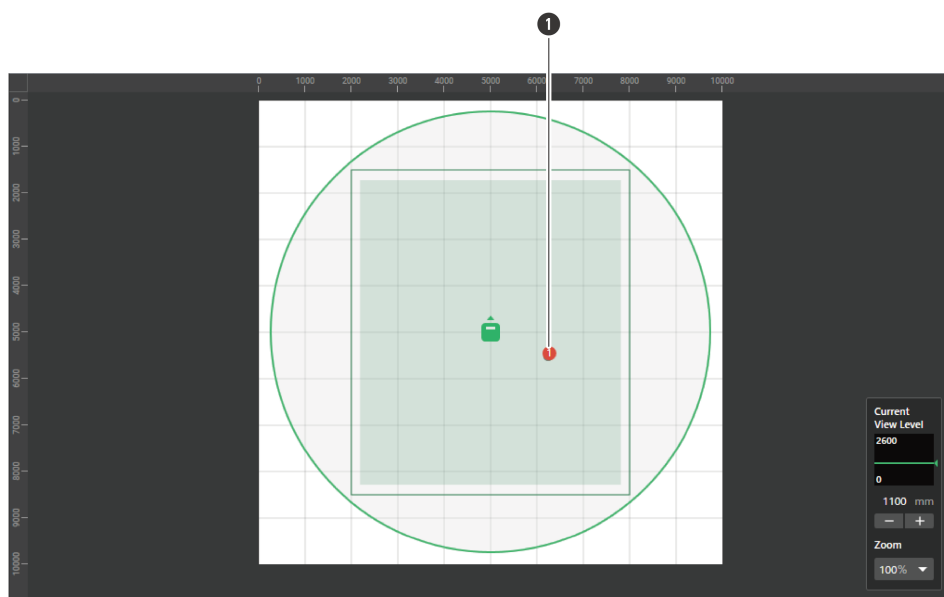
ポジションマーカについて

ポジションマーカを追加する

音声を検出した位置をポジションマーカでマーキングします。部屋の図面が利用できない場合にゾーンを設定するのに便利です。ポジションマーカを参考にしてカバレッジゾーンやプライオリティゾーンの位置を設定します。

- ポジションマーカは、マイクロホンがオンラインのときのみ使用できます。
- ポジションマーカは、1つのマイクロホンにつき16箇所までマーキングできます。

ビームゾーン設定

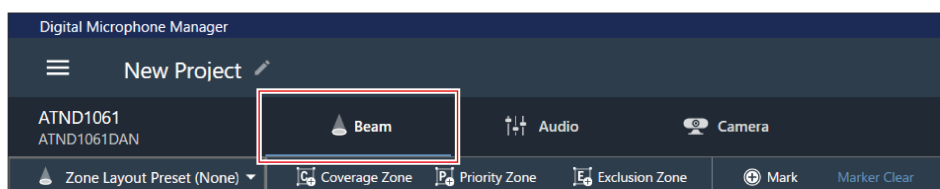


① ポジションマーカー

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

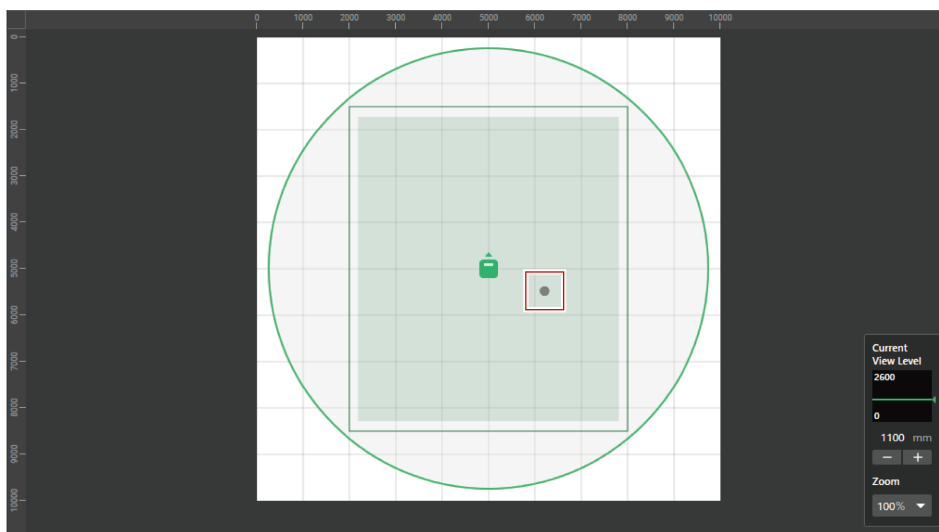
2 「Beam」をクリックします。



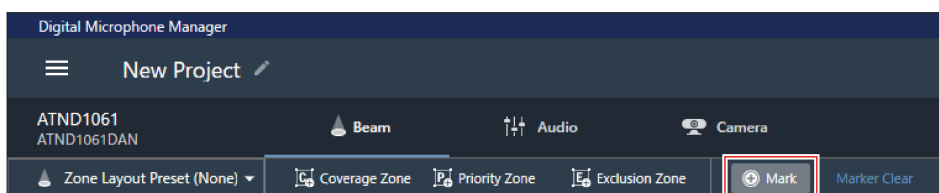
3 部屋の中の任意の位置で音声を発します。

≫ 音声を検出した位置がメインエリアに表示されます。

ビームゾーン設定



4 「Mark」をクリックします。



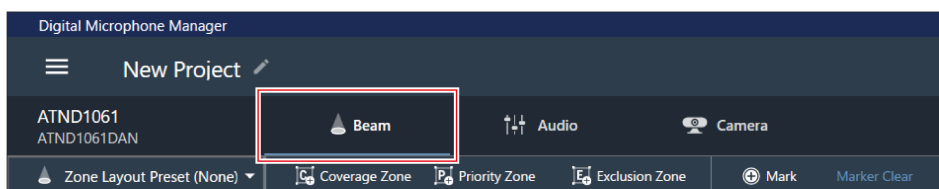
≫ ポジションマーカが追加されます。

ポジションマーカを削除する

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

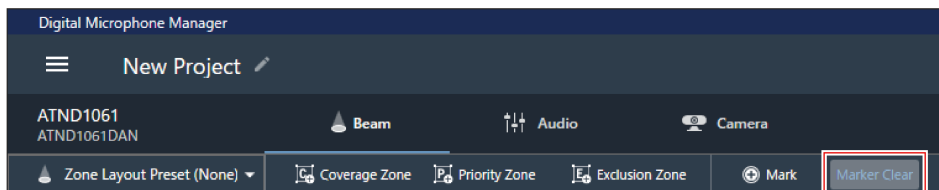
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Beam」をクリックします。



3 「Marker Clear」をクリックします。

ビームゾーン設定



» すべてのポジションマーカーが削除されます。



- ビューレベルの表示高さを変えると、ポジションマーカーが削除されます。

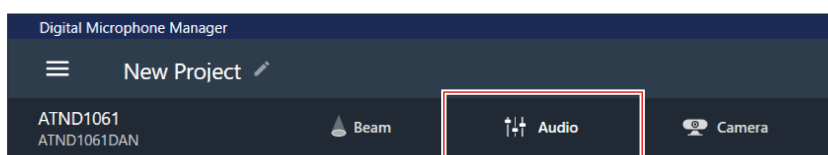
オーディオ設定

オーディオ設定画面を表示する

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Audio」をクリックします。



≫ オーディオ設定画面が表示されます。

オーディオ設定画面の見かた

DSPモードの選択によって表示される設定項目が異なります。

モード	設定項目
AECモード	AGC、Auto Mix、AEC、NC
Voice Liftモード	Voice Lift、Auto Mix

AECモード



- ① Coverageチャンネル (CH1)
カバレッジゾーンで収音された音声チャンネルです。
- ② チャンネルメニュー
クリックすると、チャンネルメニューを選択することができます。
- ③ Priority1~Priority5チャンネル (CH2~CH6)
各プライオリティゾーンで収音された音声チャンネルです。
- ④ Analog Inputチャンネル
アナログ接続した外部機器の音声入力チャンネルです。
- ⑤ Auto Mixチャンネル
オートミックスでミックスされた音声出力チャンネルです。
- ⑥ Analog Outputチャンネル
Auto Mixチャンネルをアナログ変換した音声出力チャンネルです。
- ⑦ チャンネルオーディオ設定
チャンネルタイプに応じたオーディオ設定をします。
- ⑧ 選択マイクロホン
選択しているマイクロホンを表示します。
- ⑨ オーディオ詳細設定
オーディオ設定の詳細設定 (AGC/Auto Mix/AEC/NC) を表示します。

Voice Liftモード



- ① Coverageチャンネル (CH1)
カバレッジゾーンで收音された音声チャンネルです。
- ② チャンネルメニュー
クリックすると、チャンネルメニューを選択することができます。
- ③ Priority1~Priority5チャンネル (CH2~CH6)
各プライオリティゾーンで收音された音声チャンネルです。
- ④ Analog Inputチャンネル
アナログ接続した外部機器の音声入力チャンネルです。
- ⑤ Auto Mixチャンネル
オートミックスでミックスされた音声出力チャンネルです。
- ⑥ Analog Outputチャンネル
Auto Mixチャンネルをアナログ変換した音声出力チャンネルです。
- ⑦ Voice Liftチャンネル
Voice Liftモードでの音声出力チャンネルです。
- ⑧ チャンネルオーディオ設定
チャンネルタイプに応じたオーディオ設定をします。
- ⑨ 選択マイクロホン
選択しているマイクロホンを表示します。

オーディオ設定

10 オーディオ詳細設定

オーディオ設定の詳細設定（Voice Lift／Auto Mix）を表示します。

DSPモードを切り替える

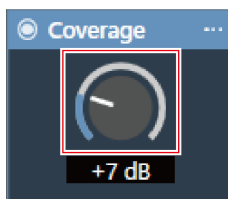
Settings & Maintenance画面の「System Settings」>「Audio」>「DSP Mode」で設定することができます。

ゲインを調整する

音声入力の入力ゲインを調整します。

1 チャンネルオーディオ設定のメーターをドラッグ（縦方向）してゲインを調整します。

- ゲイン調整中、レベルメーターは青色になりプリフェーダーレベルを表示するので、そのレベルを確認しながら調整します。



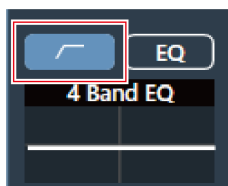
- メーターの下に数字をクリックしてゲイン値を入力することもできます。

ローカットを設定する

入力音声の低域のカットのON／OFFを設定します。

1 チャンネルオーディオ設定の赤枠部分をクリックします。

- クリックするたびに、ローカットのON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



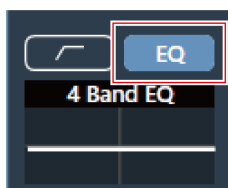
オーディオ設定

≫ ローカットがON/OFFされます。

4バンドEQを設定する

音声入力に4バンドEQのON/OFFを設定します。

- 1 チャンネルオーディオ設定の「EQ」をクリックします。
 - クリックするたびに、4バンドEQのON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



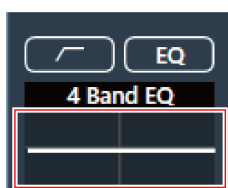
≫ 4バンドEQがON/OFFされます。

4バンドEQを調整する

簡易モードで調整する

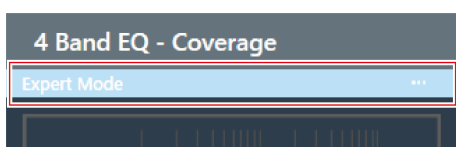
あらかじめ用意されたEQパターンから選択することで、4バンドEQを簡単に調整できます。

- 1 チャンネルオーディオ設定の「4 Band EQ」のグラフをクリックします。



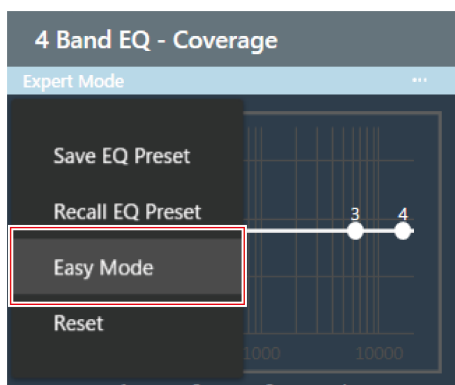
≫ オーディオ詳細設定に「4 Band EQ」が表示されます。

- 2 「Expert Mode」をクリックします。



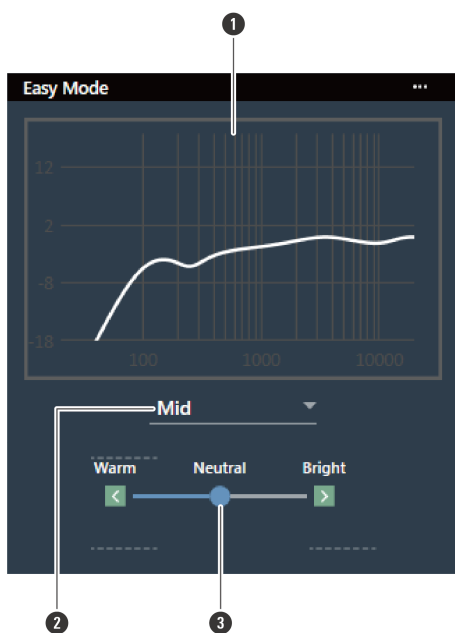
オーディオ設定

3 プルダウンの「Easy Mode」をクリックします。



≫ オーディオ詳細設定の「4 Band EQ」が簡易モードに切り替わります。

4 4バンドEQを調整します。



- ① EQの周波数特性波形を表示します。
- ② プルダウンから音声の種類を選択します。
- ③ 音色を調整します。

詳細モードで調整する

バンドごとにパラメーターの設定ができるので、4バンドEQを詳細に調整できます。

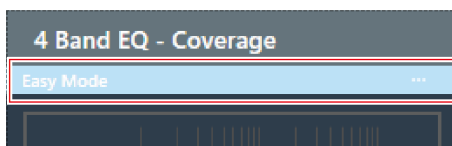
オーディオ設定

- 1 チャンネルオーディオ設定の「4 Band EQ」のグラフをクリックします。

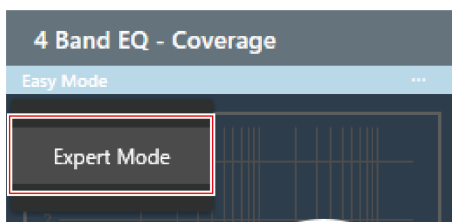


≫ オーディオ詳細設定に「4 Band EQ」が表示されます。

- 2 「Easy Mode」をクリックします。



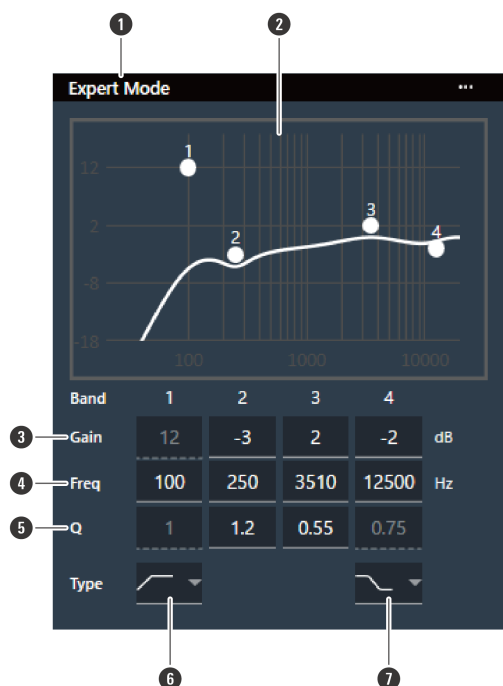
- 3 プルダウンの「Expert Mode」をクリックします。



≫ オーディオ詳細設定の「4 Band EQ」が詳細モードに切り替わります。

- 4 4バンドEQを調整します。

オーディオ設定



- ① クリックすると、EQプリセットの保存や呼び出し、周波数特性波形のリセットをすることができます。
Save EQ Preset：よく使用する4バンドEQの設定をEQプリセットとして保存できます。
Recall EQ Preset：EQプリセットを呼び出します。
Easy Mode：4 Band EQ設定を簡易モードに切り替えます。
Reset：周波数特性波形をリセットします。
- ② EQの周波数特性波形を表示・調整します。バンドごとのポインターが周波数とゲインの位置を示します。ポインターをドラッグして周波数とゲインを調整することができます。
- ③ 数値を入力してゲインを変更します。
- ④ 数値を入力して周波数を変更します。
- ⑤ 数値を入力してQ値を変更します。数値が大きいほど、周波数を中心により狭い範囲で調整を行います。
- ⑥ プルダウンからBand1のフィルタータイプを選択します。
 - HPF（ハイパスフィルター）：選択した周波数より低い帯域をカットします。
 - LSH（ローシェリングフィルター）：選択した周波数よりも低い帯域を増減します。
 - PEQ：選択した周波数の周辺を増減します。
- ⑦ プルダウンからBand4のフィルタータイプを選択します。
 - LPF（ローパスフィルター）：選択した周波数より高い帯域をカットします。
 - HSH（ハイシェリングフィルター）：選択した周波数よりも高い帯域を増減します。
 - PEQ：選択した周波数の周辺を増減します。

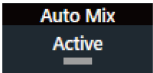


- EQプリセットはアプリケーションに保存されますので、別のプロジェクトでも使うことができます。
- EQプリセットの書き出し・読み込みについては、「4 Band EQ Library (Presets)」(p.103)を確認してください。

オートミックスの状態を確認する

チャンネルオーディオ設定にオートミックスの状態が表示されます。

オーディオ設定

表示	状態
	OFFの状態です。
	ONの状態です。
	ONの状態オートミックスが機能しています。

オートミックスを設定する

オートミックスのON/OFFを設定します。オートミックスをONに設定したチャンネルの音声入力レベルの合算値を比較し、その比率に応じて各チャンネルでゲインを分け合う機能です。複数のチャンネルからの音声入力があっても、トータルのゲインが常に一定になります。

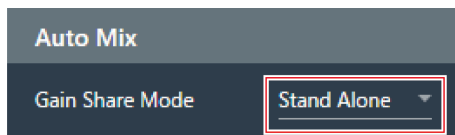
- オートミックスをONにしたチャンネルの音声入力ミックスされてAuto Mixチャンネルから出力されます。

1 オーディオ詳細設定の「Auto Mix」をクリックします。

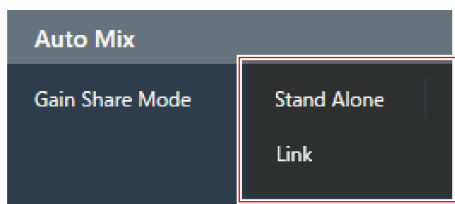


≫ オーディオ詳細設定とチャンネルオーディオ設定に「Auto Mix」が表示されます。

2 「Gain Share Mode」の赤枠部分をクリックします。



3 プルダウンからゲインシェアモードを選択します。

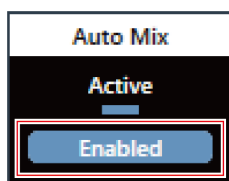


オーディオ設定

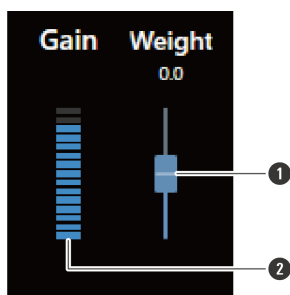
項目名	説明
Stand Alone	1台のマイクロホンで運用します。
Link	複数台のマイクロホンで運用します。

4 オートミックスを設定するチャンネルのチャンネルオーディオ設定の「Enabled」をクリックしてON（青色）にします。

- クリックするたびに、オートミックスのON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



5 オートミックスのウェイト値を調整します。



- つまみをドラッグしてオートミックスのウェイト値を調整します。
- ゲインが自動的に調整された値を表示します。

≫ オートミックスが設定されます。

AGCを設定する

Auto MixチャンネルにAGC（オートゲインコントロール）のON／OFFを設定します。入力レベルに応じてゲインを自動補正し、レベル差のある信号の出力レベルを一定に保つ機能です。ターゲットレベルより小さな音は大きくし、ターゲットレベルより大きな音は小さくします。

1 オーディオ詳細設定の「AGC」をクリックします。



オーディオ設定

≫ オーディオ詳細設定に「AGC」が表示されます。

2 「AGC」のスイッチをクリックしてON（青色）にします。

- クリックするたびに、AGCのON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



3 「Target Level」を設定します。

- 赤枠部分をクリックすると、ターゲットレベルを調整できます。
- ターゲットレベルは、ユニティ(0dB)から±10dBの範囲で変更できます。



≫ Auto MixチャンネルにAGCが設定されます。



- ウェブ会議システムを併用すると、ノイズが大きくなるなど予期しない不具合が発生することがあります。その場合は、AGC をOFF にしてください。

AECを設定する

Auto MixチャンネルにAEC（アコースティックエコーキャンセラー）のON／OFFを設定します。会議などでの相手側の音声信号をリファレンス信号として、自分側から送られる音声信号から相手側のエコー成分のみを除去し、話者の音声のみを出力する機能です。

1 オーディオ詳細設定の「AEC」をクリックします。



≫ オーディオ詳細設定に「AEC」が表示されます。

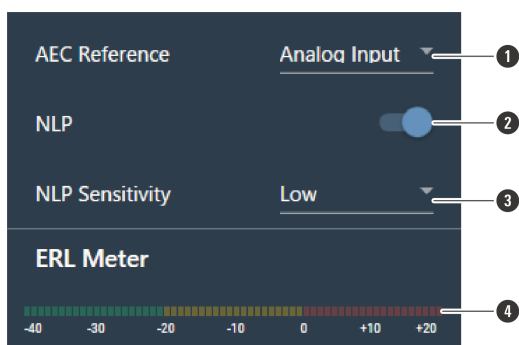
2 「AEC」のスイッチをクリックしてON（青色）にします。

- クリックするたびに、AECのON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。

オーディオ設定



3 AECを設定します。



- ① プルダウンからリファレンス信号を選択します。通常は、他拠点にある端末からの音声を選択します。
- ② エコーの消し残りを低減する設定を行います。工場出荷時は、ON（青色）に設定されています。スイッチをクリックするたびに、ON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。
- ③ プルダウンからNLPの効き具合を選択します。工場出荷時は「Low」に設定されています。
- ④ ERLメーターが0以下になるようにマイクロホンとの距離やスピーカーの位置、入力レベルなどを調整します。

≫ Auto MixチャンネルにAECが設定されます。



- アコースティックエコーとは、ビデオ会議の設定などで、スピーカーから出力された音声をマイクロホンで拾うことにより発生する現象です。相手側からの音声スピーカーで拡声され、部屋の天井や壁・床などで反射し、自分側の音声とともにマイクロホンに拾われて相手側へ戻ります。この現象より、相手側では自身の音声が遅れて聞こえてくるので、耳障りで話しにくくなります。AEC機能をONにすることで、エコー成分のないクリアな音声を相手側へ届けることができます。

NCを設定する

Auto MixチャンネルにNC（ノイズキャンセル）のON／OFFを設定します。空調やプロジェクターのファンの駆動音などの定常波ノイズを除去する機能です。

- マイクロホンを空調やプロジェクターなどの近くに設置する場合は、NC機能を使用することを推奨します。

1 オーディオ詳細設定の「NC」をクリックします。

オーディオ設定



≫ オーディオ詳細設定に「NC」が表示されます。

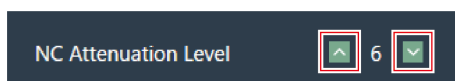
2 「NC」のスイッチをクリックしてON（青色）にします。

- クリックするたびに、NCのON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



3 「NC Attenuation Level」を設定します。

- 赤枠部分をクリックすると、ノイズキャンセル機能の抑制レベルを調整できます。
- 抑制レベルは、0dB～20dBの間で調整できます。



≫ Auto MixチャンネルにNCが設定されます。

ボイスリフト機能を使用する

同じ部屋の中にいる人が均一で明瞭な音声が聴こえるようになり、複数人での自然な会話を実現することができます。

- 一般的に、話者から7m程度離れると肉声が聞こえにくくなると言われています。マイクロホンが複数台必要になるような広い部屋では、肉声のみでの複数人の会話は難しくなります。

ボイスリフト機能と一般的な拡声機能の違い

一般的な拡声機能は、1人の音声を複数人に届けることが主な目的になります。スピーカーから離れている人にも明瞭な音声を十分な音量で届ける必要があるため、スピーカーからは大きな音量が流れます。

対して、ボイスリフト機能は複数人が同じ部屋の中にいる状況で肉声をベースにした良好な会話ができる環境を構築することが目的です。部屋の中の音量が均一で、お互いに近くで話しているような感覚を実現します。

ボイスリフト機能の使用に向いている部屋

ボイスリフト機能は、マイクロホンが複数台必要となる広い部屋（一辺が10m以上）で有効です。

オーディオ設定

- スピーカーが不要な広さの部屋、騒音レベルが高い部屋、残響時間が長い部屋での使用には推奨しません。

ボイスリフトを設定する

ボイスリフト機能の抑制の強さを設定します。

- ボイスリフト用のビームは通常の收音ビームとは異なり、すべての收音範囲（エクスクルージョンゾーン以外）の中を動きます。一度話者に焦点を当てると、70msはその場にとどまり、そのあとに次の話者へと移動します。ビームの動きを変えることでハウリング抑制効果を高めます。また、より明瞭な音声を得るためにスピーチ用のフィルターで音質を調整しています。
- オーディオ設定のDSPモードをVoice Liftモードに切り替える必要があります。「DSPモードを切り替える」(p.63)を確認してください。
- ボイスリフト機能で收音する範囲を設定することができます。Settings & Maintenance画面の「System Settings」>「Audio」>「DSP Mode」(p.93)で設定してください。

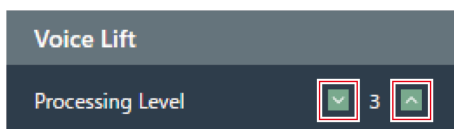
1 オーディオ詳細設定の「Voice Lift」をクリックします。



≫ オーディオ詳細設定に「Voice Lift」が表示されます。

2 「Processing Level」を設定します。

- 赤枠部分をクリックすると、ボイスリフト機能の抑制の強さを設定できます。
- 抑制の強さは、Voice Liftチャンネルの内部処理によって1（弱）～5（強）の間で設定できます。



設定値	説明
1	DSP処理なし
2	ノッチフィルター
3	アダプティブフィードバックキャンセラー＋ノッチフィルター
4	アダプティブフィードバックキャンセラー＋ノッチフィルター＋NLP
5	アダプティブフィードバックキャンセラー＋ノッチフィルター＋NLP＋周波数シフト



- ボイスリフト機能の出力は次のとおりです。
ATND1061DAN : Tx#7
ATND1061LK : CH8

ミュートを設定する

ミュート／ミュート解除を設定します。

- 1 チャンネルオーディオ設定の「Mute」をクリックします。
 - クリックするたびに、ミュート（赤色）／ミュート解除（色なし）が切り替わります。

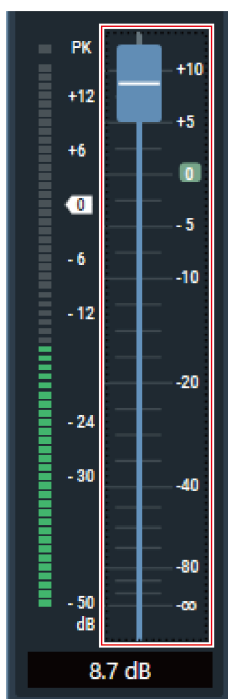


≫ 選択したチャンネルがミュート／ミュート解除されます。

入出力レベルを調整する

チャンネルの音声入力レベルまたは音声出力レベルを調整します。

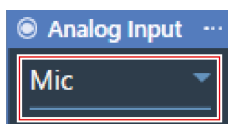
- 1 チャンネルオーディオ設定の音量調整つまみをドラッグして入力レベルまたは出力レベルを調整します。



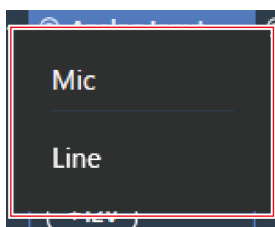
Analog Inputの入力タイプを設定する

Analog Inputチャンネルの入力タイプを設定します。

- 1 チャンネルオーディオ設定の入力タイプの赤枠部分をクリックします。



- 2 プルダウンから入力タイプを選択します。



項目名	説明
Mic	マイクレベル
Line	ラインレベル

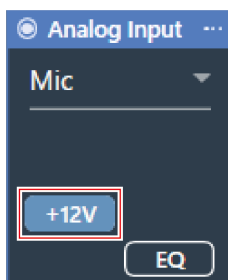
Analog Inputのファントム電源を設定する

Analog Inputチャンネルのファントム電源（+12V）のON/OFFを設定します。

- 入力タイプが「Mic」の場合のみ設定できます。

- 1 チャンネルオーディオ設定の「+12V」をクリックします。
 - クリックするたびに、ファントム電源のON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。

オーディオ設定

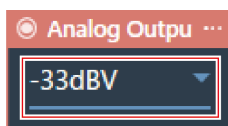


≫ ファントム電源がON/OFFされます。

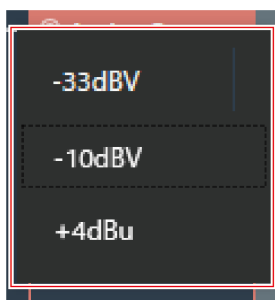
Analog Outputのユニティレベルを設定する

Analog Outputチャンネルのユニティレベルを設定します。

- 1 チャンネルオーディオ設定のユニティレベルの赤枠部分をクリックします。



- 2 プルダウンからユニティレベルを選択します。



項目名	説明
-33dBV	マイク（バランス）
-10dBV	ライン（アンバランス）
+4dBu	ライン（バランス）

チャンネル名・色を設定する

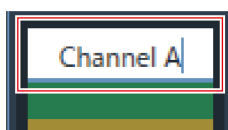
各チャンネルのチャンネル名と色を設定します。

オーディオ設定

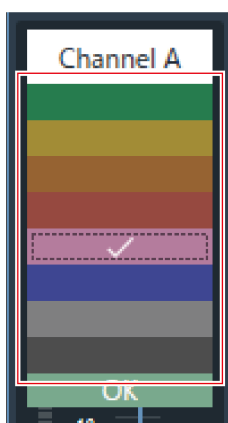
- 1 チャンネルオーディオ設定のチャンネル名をクリックします。



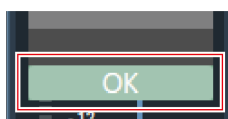
- 2 テキスト部分をクリックしてチャンネル名を入力します。



- 3 色を選択します。



- 4 「OK」をクリックします。



≫ チャンネル名と色が設定されます。

オーディオ設定をコピーする

1 つのチャンネルのオーディオ設定をほかのチャンネルにコピーします。

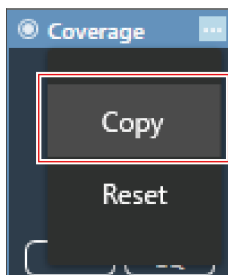
- Coverageチャンネル、Priority1～Priority5チャンネルのみオーディオ設定をコピーできます。

オーディオ設定

- 1 オーディオ設定をコピーするチャンネルのチャンネルメニューをクリックします。



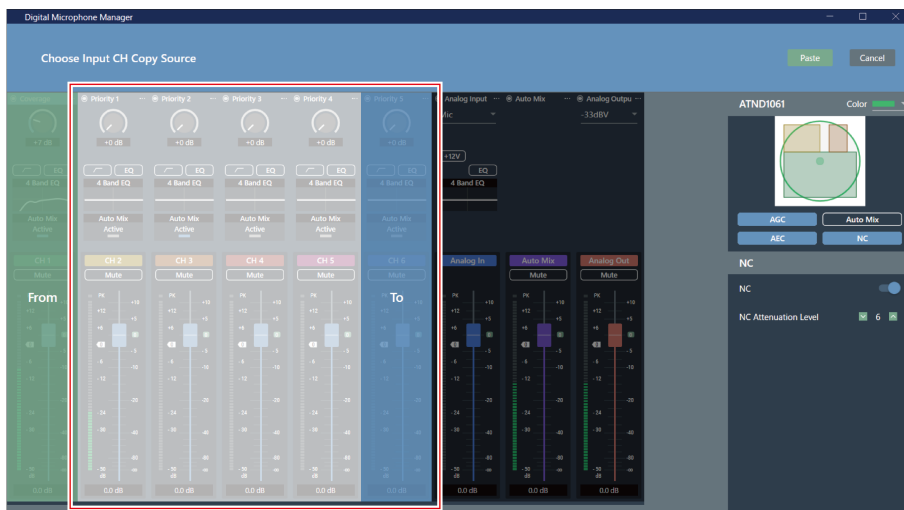
- 2 フルダウンの「Copy」をクリックします。



≫ 画面表示がコピーモードに切り替わり、コピー元のチャンネルが選択されます。

- 3 コピー先のチャンネルを選択します。

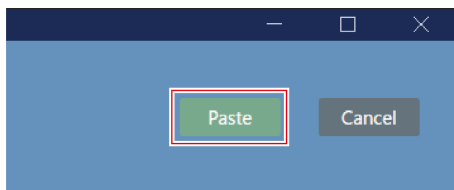
- コピー先のチャンネルは複数選択できます。
- コピー先に選択したチャンネルを再度クリックすると、選択を解除できます。



- 4 「Paste」をクリックします。

- コピーをキャンセルしたい場合やコピー元のチャンネルを選択し直したい場合は、「Cancel」をクリックしてください。コピーモードが解除されます。

オーディオ設定



≫ コピー元のオーディオ設定がコピー先に反映されます。

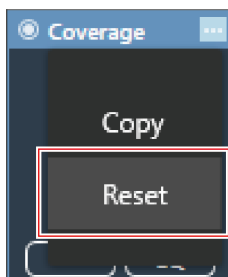
オーディオ設定をリセットする

チャンネルごとに設定したオーディオ設定をリセットして初期設定に戻します。

- 1 オーディオ設定をリセットするチャンネルのチャンネルメニューをクリックします。



- 2 プルダウンの「Reset」をクリックします。



≫ オーディオ設定がリセットされます。

カメラエリア設定

カメラエリアを追加する

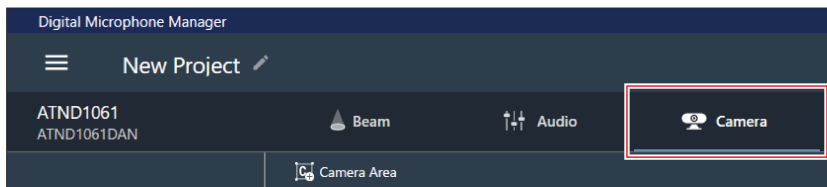
カメラエリア内での話者を検出し、位置情報として出力します。

- 出力した位置情報を基に、カメラを話者へ向けることができます。
- カメラの動作については、カメラ側での位置情報の受け取り・処理が必要です。
- カメラエリアは、1つのマイクロホンにつき15箇所まで設定できます。

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

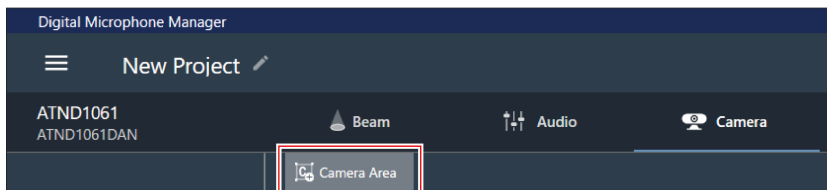
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Camera」をクリックします。



3 「Camera Area」をクリックします。

- クリックするたびに、カメラエリア追加モードのON/OFFが切り替わります。
- 收音エリア内で右クリックまたはキーボードのEscキーを押すと、カメラエリア追加モードをOFFにすることができます。

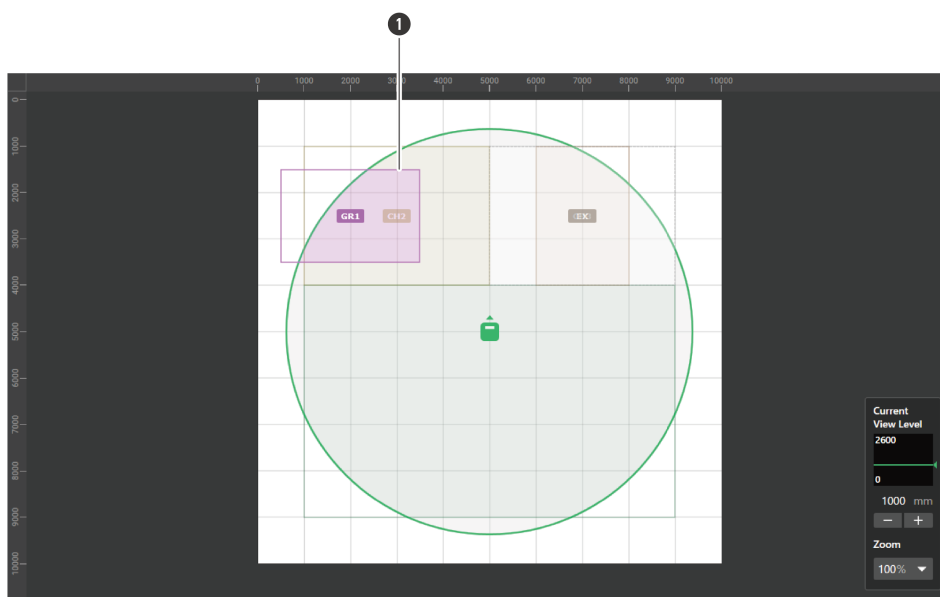


≫ カメラエリア追加モードになります。

4 收音エリア内でドラッグしてカメラエリアを追加します。

- 收音エリア外には、カメラエリアを追加できません。
- カメラエリア同士を重ねて追加することはできません。

カメラエリア設定

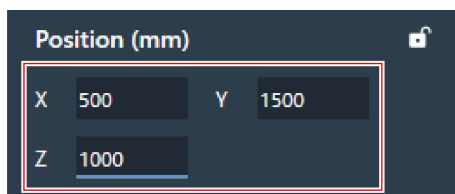


1 カメラエリア

≫ 追加したカメラエリアが選択状態になり、コンテキストパネルに「Camera Area」が表示されます。

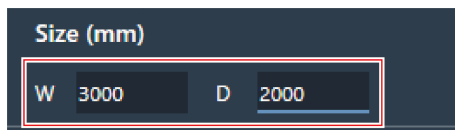
5 カメラエリアの位置を調整します。

- ・ 「Position」の「X」（横方向）・「Y」（縦方向）に原点からの位置、「Z」に床からの高さを入力します。
- ・ メインエリアで、カメラエリアをドラッグして位置を変更することもできます。



6 カメラエリアのサイズを調整します。

- ・ 「Size」の「W」（幅）・「D」（奥行）にカメラエリアのサイズを入力します。
- ・ メインエリアで、カメラエリアの角のポイントをドラッグしてサイズを変更することもできます。

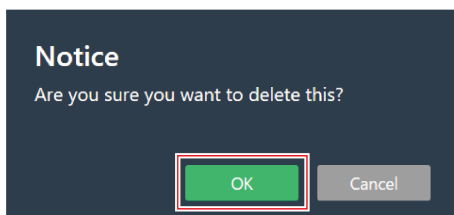


カメラエリアを削除する

- 1 メインエリアでカメラエリアを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Camera Area」が表示されます。
- 2 ゴミ箱マークをクリックする、またはDeleteキーを押します。



- 3 メッセージの「OK」をクリックします。



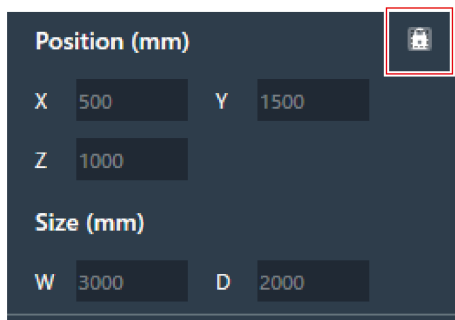
≫ カメラエリアが削除されます。

カメラエリアをロックする

カメラエリアの位置・サイズを変更できないようロックします。

- 1 メインエリアでカメラエリアを選択します。
≫ コンテキストパネルに「Camera Area」が表示されます。
- 2 鍵マークをクリックします。
 - クリックするたびに、カメラエリアのロック／ロック解除が切り替わります。

カメラエリア設定



≫ カメラエリアがロックされます。

グループを設定する

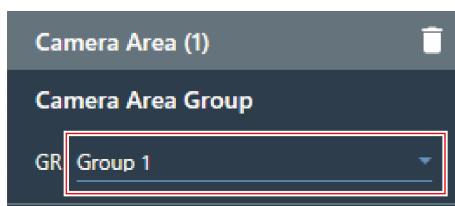
カメラエリアに割り当てるグループを設定します。

- 複数のカメラエリアを同じグループに割り当てることができます。
- カメラエリアのグループは、1つのマイクロホンにつき8グループまで割り当てできます。

1 メインエリアでカメラエリアを選択します。

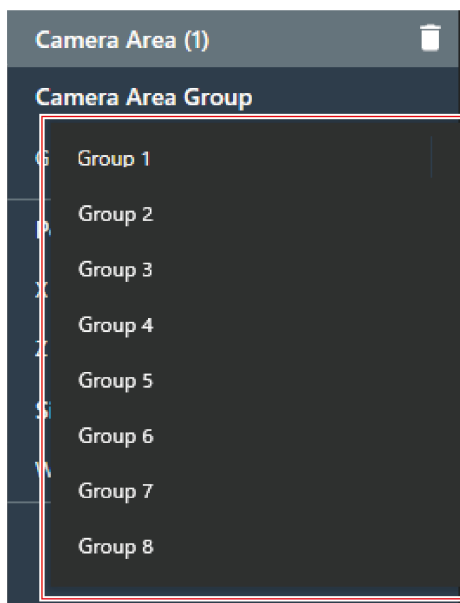
≫ コンテキストパネルに「Camera Area」が表示されます。

2 「Camera Area Group」の「GR」の赤枠部分をクリックします。



3 プルダウンからグループ番号を選択します。

カメラエリア設定



≫ カメラエリアに表示されているグループ番号が、割り当てたグループ番号に変わります。

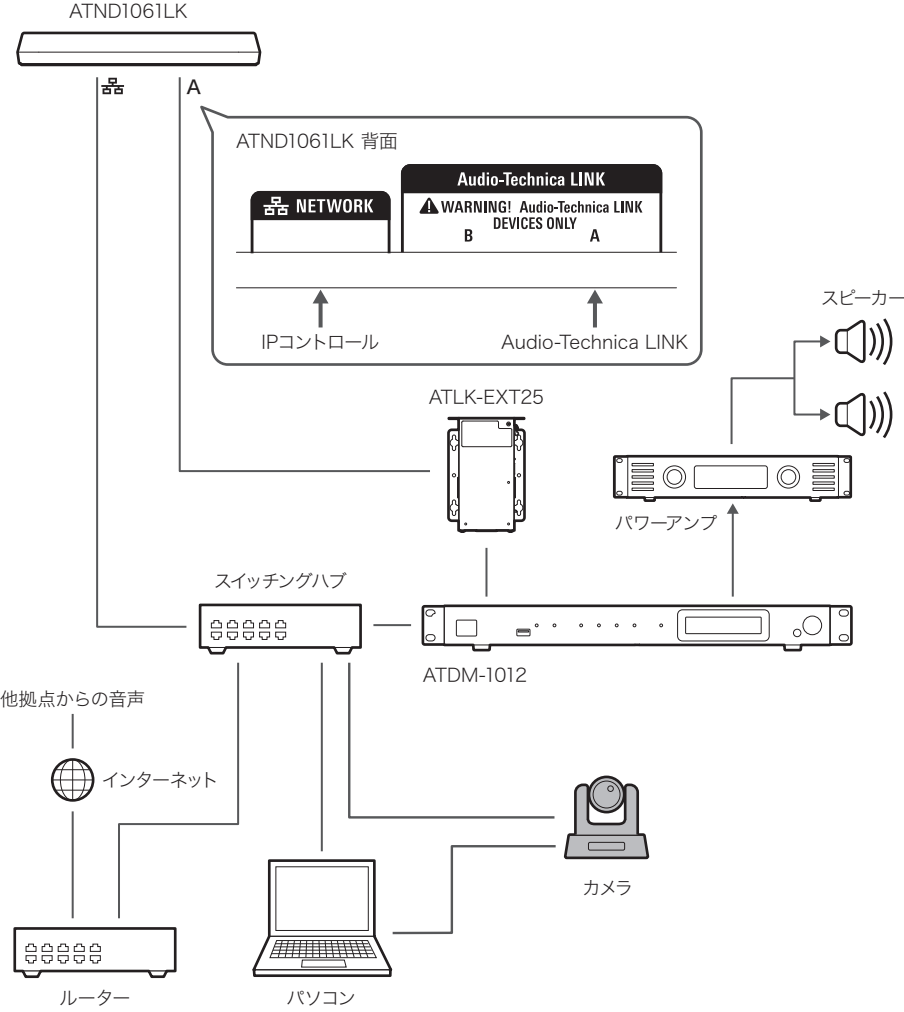
カメラ連動機能を使用する

マイクロホンを最新のファームウェアに更新すると、カメラ連動機能が使用できます。この機能は制御システムなどを使用せず、マイクロホンが話者を検出してカメラを連動させます。

システム構成例

ATND1061LKを例に説明しています。

カメラエリア設定



動作確認済み端末

本書に記載している動作確認済み端末は2024年8月現在のものです。最新の情報について当社ホームページをご確認ください。

パナソニック コネクト株式会社

HTTPプロトコルによりPanasonic社カメラ専用の形式でメッセージを送受信します。

対応機種	AW-UE50、AW-UE40、AW-UE20、AW-HE20
プロトコル	Panasonicプロトコル

ソニー株式会社

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	SRG-X40UH
プロトコル	VISCA over IP

カメラエリア設定

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	CR-N500、CR-N300、CR-N100
プロトコル	VISCA over IP

BOLIN TECHNOLOGY

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	B2-220
プロトコル	VISCA over IP

アバー・インフォメーション株式会社

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	PTC310UV2、PTZ310UNV2
プロトコル	VISCA over IP

株式会社JVCケンウッド

UDPプロトコルによりJVC standardプロトコルの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	KY-PZ200、KY-PZ200N、KY-PZ510N
プロトコル	JVC standardプロトコル

BZBGear

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	BG-ADAMO-4KDA12X-B
プロトコル	VISCA over IP

PTZOptics

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	Move 4K
プロトコル	VISCA over IP

Avonic

UDPプロトコルによりVISCA over IPの形式でメッセージを送受信します。

対応機種	CM93
プロトコル	VISCA over IP

カメラエリア設定

コマンド一覧 (Panasonicプロトコル)

コマンド名	送信コマンド	データ値	設定内容
Recall Preset Memory	http://[IPAddress]/cgi-bin/aw_ptz?cmd=%23R[Data]&res=1	[Data] : 00-99	Preset001～Preset100
Pan/Tilt AbsolutePosition Control	http://[IPAddress]/cgi-bin/aw_ptz?cmd=%23APC[Data1][Data2]&res=1	[Data1] : 8000h [Data2] : 8000h	[Data1]Pan Position Center(0°) [Data2]Tilt Position Center(0°)
Zoom Position Control	http://[IPAddress]/cgi-bin/aw_ptz?cmd=%23AXZ[Data]&res=1	[Data] : 555h	wide(Zoomポジションデフォルト)
PowerON, Standby	http://[IPAddress]/cgi-bin/aw_ptz?cmd=%23O[Data]&res=1	[Data] : 0/1	Standby/PowerOn

コマンド一覧 (VISCA over IP/JVC standardプロトコル)

コマンド名 Command Set	コマンド名 Command	送信コマンド	データ値	設定内容
PRESET	RECALL	8x 01 04 3F 02 pp FF	pp : 00～63	呼び出すプリセット番号－1
PAN TILT	PAN TILT駆動	8x 01 06 04 FF	-	Pan/Tiltポジションデフォルト
ZOOM	DIRECT	8x 01 04 47 00 00 00 00 FF	-	Zoomポジションデフォルト
POWER	ON/STANDBY	8x 01 04 00 0p FF	p : 2/3	On/Standby



- VISCA over IPはソニー株式会社が開発した通信規格で、IPネットワーク上でカメラの遠隔制御を行うものです。通信規格の仕様上、指定通信ポートは「52381」を使用します。VISCA over IPでカメラ連動機能を使用する場合は、設定項目内の「Port Number」を「52381」に設定してください。

接続方法

- 1 カメラのプリセットを設定します（画角を設定します）。
 - 設定についてはカメラの取扱説明書を確認してください。
- 2 Digital Microphone Managerでカメラエリア設定を行います。
 - 「カメラエリアを追加する」(p.80)を確認してください。
- 3 プリセットを設定します。

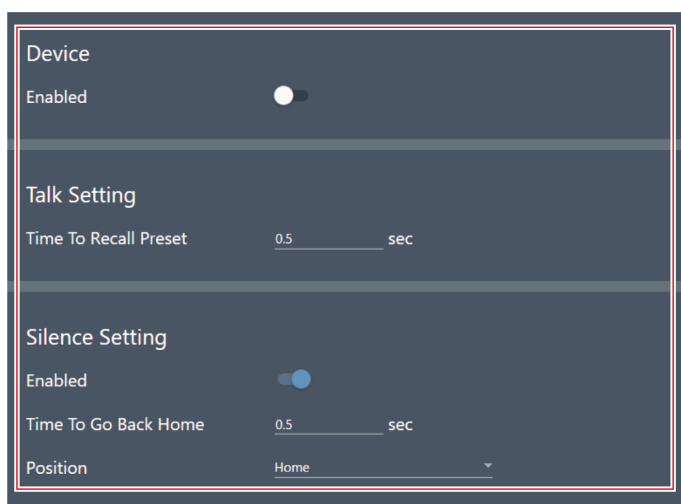
カメラエリア設定

- カメラエリアグループとカメラ側の呼び出すプリセットを紐づけする設定を行います。カメラ側のプリセット番号を確認して、カメラ側のどのプリセットを呼び出すかを設定してください。



4 Settings & Maintenance画面から「Camera」を選択します。

- 「Device」の「Enabled」をON（青色）にして、各項目を設定します。
- 設定項目については、「Camera」(p.99)を確認してください。



カメラ連動機能の一時停止について

カメラ連動機能を運用中に機能を一時停止する場合は、IPコントロールまたはGPI設定で「Camera Control」を設定し、外部制御で一時停止を行ってください。

Settings & Maintenance

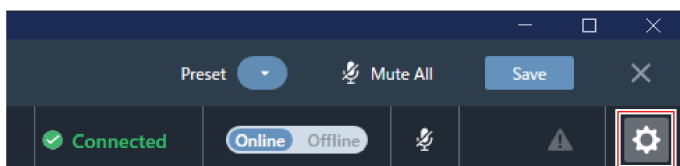
マイクロホンのシステムに関わる詳細設定や、メンテナンス時や障害発生時に使用するユーティリティの設定を行います。

Settings & Maintenance画面の基本操作

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

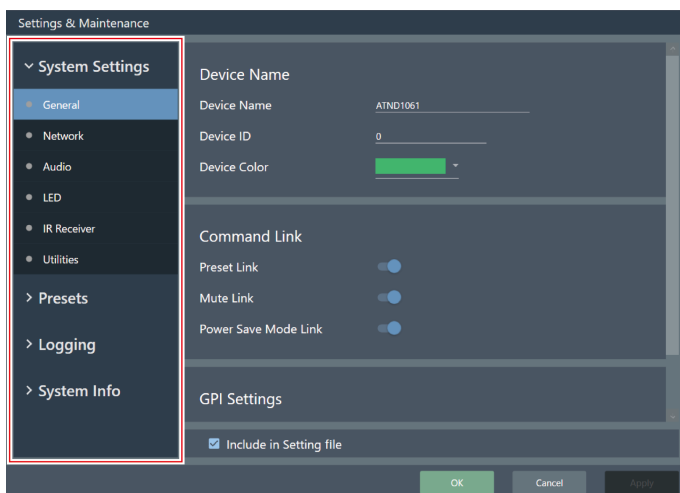
≫ マイクロホン設定画面が表示されます。

2 赤枠部分をクリックします。



≫ Settings & Maintenance画面が表示されます。

3 設定メニューを開き、設定項目をクリックして選択します。

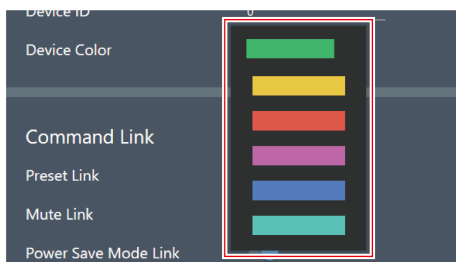


4 テキスト入力の設定は、設定欄をクリックして入力します。



5 プルダウン選択の設定は、設定欄をクリックしてプルダウンから選択します。

Settings & Maintenance



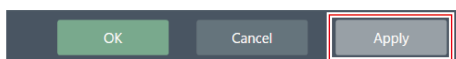
6 スイッチ切り替えの設定は、スイッチをクリックします。

- クリックするたびに、ON（青色）／OFF（色なし）が切り替わります。



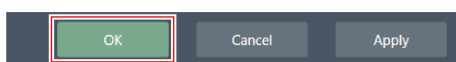
7 「Apply」をクリックします。

- 「Cancel」をクリックすると、設定を中止することができます。



≫ 設定が適用されます。

8 「OK」をクリックして終了します。



General (System Settings)

Device Name

項目名	説明
Device Name	マイクロホンの名前を設定します。
Device ID	マイクロホンのIDを設定します。
Device Color	メインエリア上でのマイクロホンの表示色を設定します。

Command Link

IPコマンドを1台に送信するだけで同じネットワーク内にある複数のマイクロホンを一斉ミュート、プリセットの呼び出し、ミュート、パワーセーブモードなどへの移行ができます。

Settings & Maintenance

- ブロードキャストで通信します。
- マイクホン側（Digital Microphone Manager側）でアドレスを設定する必要はありません。ただし、連動させたいマイクホン同士のサブネットマスクは同じ設定にしてください。
- 使用ポートは18000、18001（送信ポートと受信ポート）です。外部機器を使用する場合はポート番号が被らないようにしてください。

項目名	説明
Preset Link	プリセット呼び出しを連動させます。
Mute Link	ミュート呼び出しを連動させます。
Power Save Mode Link	パワーセーブモードへの移行を連動させます。
Link Group	同じネットワーク内にあるマイクホンをグループで分けてコマンドリンクを使用することができます。グループ番号を設定します。

GPI Settings

項目名	説明
Port1	GPIポート1に割り当てる機能を設定します。
Port2	GPIポート2に割り当てる機能を設定します。

Include in Setting file

チェックマークを付けると、設定ファイルを読み込む際、またはオンラインのマイクホンを接続するときに「App→Device」を選択した際に、「General」の設定内容をマイクホン本体の設定に反映します。



- チェックマークを入れた状態で設定を反映するとマイクホン本体の設定が上書きされる場合がありますのでご注意ください。

Network (System Settings)

Dante Network Configuration

項目名	説明
Mode	「Single Cable」に設定すると、1本のケーブルで出力します。「Split」に設定すると、IPコントロールを別のケーブルで出力します。複数のケーブルで接続しますので、接続を確認してください。
Latency	Danteポートのレイテンシーを設定します。

Settings & Maintenance

Dante & Audio Port Settings

項目名	説明
IP Config Mode	IPアドレスの取得方法を設定します。「Auto」に設定すると、DHCPサーバーなどが自動でIPアドレスを割り当てます。「Static」に設定すると、固定IPアドレスを指定します。
IP Address ^[1]	IPアドレスを設定します。
Subnet Mask ^[1]	サブネット・マスクを設定します。
Gateway Address ^[1]	ゲートウェイ・アドレスを設定します。

[1] 「IP Config Mode」を「Static」に設定した場合に設定できます。

IP Control & Web Remote Port Settings

項目名	説明
IP Config Mode	IPアドレスの取得方法を設定します。「Auto」に設定すると、DHCPサーバーなどが自動でIPアドレスを割り当てます。「Static」に設定すると、固定IPアドレスを指定します。
IP Address ^[1]	IPアドレスを設定します。
Subnet Mask ^[1]	サブネット・マスクを設定します。
Gateway Address ^[1]	ゲートウェイ・アドレスを設定します。

[1] 「IP Config Mode」を「Static」に設定した場合に設定できます。

Allow Discovery

項目名	説明
Enabled	同じネットワーク内にあるマイクロホンの自動検出を設定します。「ON」（青色）に設定すると、自動検出可能になります。

IP Control Settings

項目名	説明
Port Number	IPコントロールポートの番号を表示します。
Notification	IPコントロール時にマイクロホンからの通知を受け取るかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、通知を受け取ります。
Audio Level Notification ^[1]	IPコントロール時にマイクロホンから音声レベルの通知を受け取るかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、通知を受け取ります。
Camera Control Notification ^[1]	IPコントロール時にマイクロホンからカメラ検出情報の通知を受け取るかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、通知を受け取ります。
Multicast Address ^[1]	マルチキャストのアドレスを設定します。
Multicast Port Number ^[1]	マルチキャストのポート番号を設定します。

[1] 「Notification」を「ON」に設定した場合に設定できます。

Settings & Maintenance

Include in Setting file

チェックマークを付けると、設定ファイルを読み込む際、またはオンラインのマイクロホンを接続するときに「App→Device」を選択した際に、「Network」の設定内容をマイクロホン本体の設定に反映します。



- チェックマークを入れた状態で設定を反映するとマイクロホン本体の設定が上書きされる場合がありますのでご注意ください。

Audio (System Settings)

Beam Settings

項目名	説明
Beam Sensitivity	ビーム感度を設定します。 Low：ビームの方向検出精度を優先します。声以外の物音に反応することが少なくなります。ビームの追尾反応速度は遅くなります。 Mid：もっともバランスが良い設定です。 High：ビームの追尾反応速度を優先します。声以外の物音に反応することが多くなります。
Auto Attenuation	一定時間、話者が検出されなかったビームゾーンのレベルをアッテネート（減衰）する機能です。不要な音のレベルを下げることで、ノイズフロアが上がるのを防ぎ、回り込みによる明瞭度の低下を防ぎます。「ON」（青色）に設定すると、オートアッテネート機能を有効にします。
Attenuation Level ^[1]	Auto Attenuationのアッテネート（減衰）させるレベルを調整します。
Hold Time ^[1]	Auto Attenuationの話者が検出されないと判断するまでの時間を調整します。
Room Type	部屋の残響特性による発話位置のずれがある場合に補正するパラメータです。 Dry：発話位置を補正しません。残響が少ない部屋で使用している場合に設定してください。RT60の目安は300msec以下です。 Live：残響による発話位置のずれを弱めに補正します。一般的な会議室で使用している場合に設定してください。RT60の目安は300msec～800msecです。 Reverberant：残響が大きい部屋で発話位置のずれを強めに補正したい場合に設定してください。RT60の目安は800msec以上です。

[1] 「Auto Attenuation」を「ON」（青色）に設定した場合に設定できます。

DSP Mode

項目名	説明
DSP Mode	オーディオ設定のDSPモードを設定します。
Voice Lift Output Select	ボイスリフト機能で収音する範囲を設定します。

Dante Tx#6 Signal

項目名	説明
Dante Tx#6 Signal	デジタルアウトプットの6番目のアサインを変更できます。「Priority 5」に設定すると、後段の機器でミックスします。「Auto Mix」に設定すると、本マイクロホンのミックス機能を使用します。

LED (System Settings)

LED Settings

項目名	説明
Unmute Color	ミュート解除時のマイクロホンのインジケータ色を設定します。
Mute Color	ミュート時のマイクロホンのインジケータ色を設定します。
Power Save Mode Color	パワーセーブモード時のマイクロホンのインジケータ色を設定します。

LED Dimmer

項目名	説明
LED Dimmer	マイクロホンのインジケータの明るさを設定します。「ON」（青色）に設定すると、マイクロホンのインジケータが暗くなります。

IR Receiver (System Settings)

Allow Control

項目名	説明
Mute	赤外線リモコンのミュート／決定ボタンの操作を有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、有効にします。
Power Save Mode	赤外線リモコンのパワーセーブモード／キャンセルボタンの操作を有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、有効にします。
Preset	赤外線リモコンのプリセットモードボタンの操作を有効にするかを設定します。「ON」（青色）に設定すると、有効にします。

Utilities (System Settings)

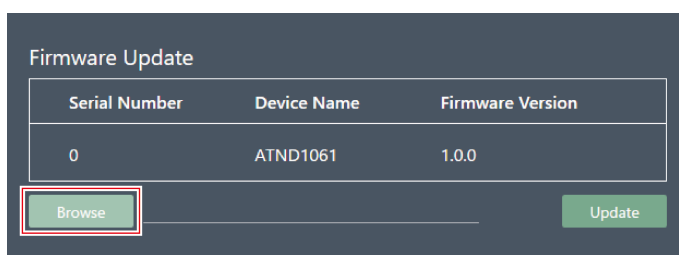
本項目はマイクロホンを接続しているときのみ表示されます。

Firmware Update

マイクロホンのファームウェアをアップデートします。

- 1 画面に表示されている「Serial Number (シリアル番号)」、「Device Name (マイクロホン名称)」、「Firmware Version (ファームウェアバージョン)」で、マイクロホンがアップデート対象であることを確認します。

- 2 「Browse」をクリックします。



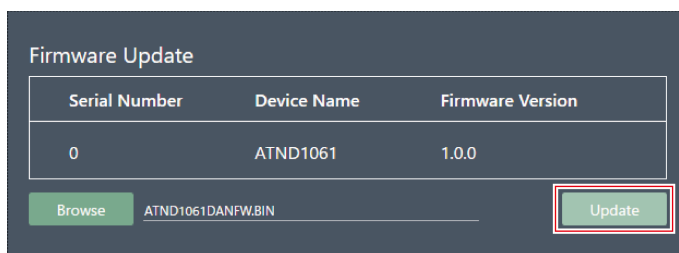
Firmware Update

Serial Number	Device Name	Firmware Version
0	ATND1061	1.0.0

Browse Update

- 3 ファイル選択画面からバージョンアップファイルを選択して開きます。

- 4 「Update」をクリックします。



Firmware Update

Serial Number	Device Name	Firmware Version
0	ATND1061	1.0.0

Browse ATND1061DANFW.BIN Update

≫ アップデートが開始されます。アップデートが完了すると、マイクロホンが自動的に再起動します。

- 5 バージョンの確認をします。
 - 「System Info」の項目で正しくアップデートされていることを確認してください。
- 6 マイクロホンをリセットし、工場出荷時の設定に戻します。

Settings & Maintenance



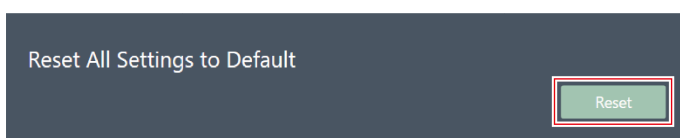
- 最新のDigital Microphone Managerを使用すると、ファームウェアのダウンロードもDigital Microphone Managerから行うことができます。画面に「Download for firmware update」の項目が表示されますので、「Download」をクリックして最新のファームウェアをダウンロードしてください。
- ファームウェアアップデート後にマイクロホンのリセットしなかった場合、VISCA over IPでカメラ連動機能を使用しているとポート番号が「80」になってしまう場合があります。その場合は、ポート番号を設定し直してください。

Reset All Settings to Default

マイクロホンの全設定を工場出荷時の設定に戻します。

- ファームウェアは現在のバージョンのままです。

1 「Reset」をクリックします。



2 メッセージの「Yes」をクリックします。

≫ 初期化が開始されます。初期化が完了すると、マイクロホンが自動的に再起動します。

Presets

Presets

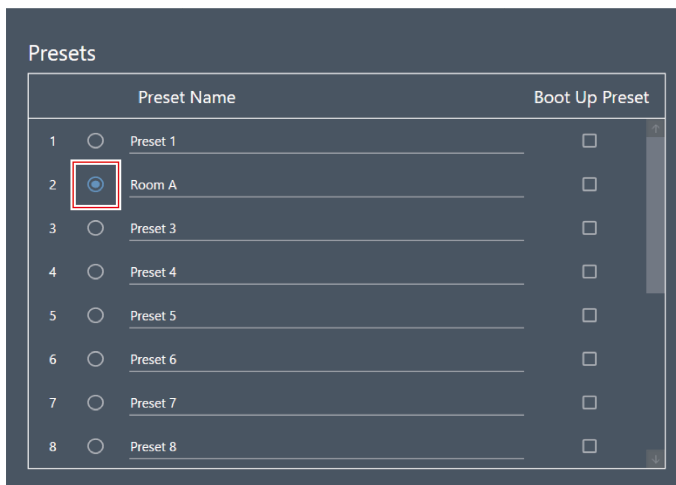
項目名	説明
Preset Name	プリセット名が表示されます。
Boot Up Preset	マイクロホンを起動したときに呼び出すプリセットを指定します。

プリセットを書き出す

プリセットをファイルに書き出します。

1 ファイルに書き出すプリセットのボタンをクリックして選択します。

Settings & Maintenance



2 「Export」をクリックします。



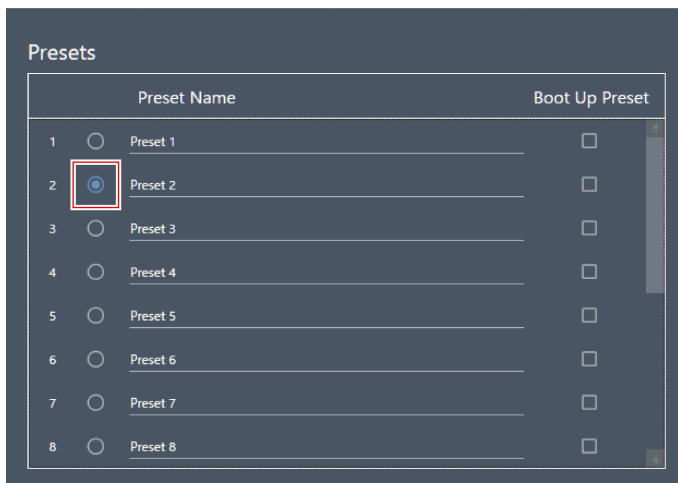
3 保存先・ファイル名を設定して書き出します。

プリセットを読み込む

書き出したプリセットのファイルを読み込みます。

1 読み込み先のプリセットのボタンをクリックして選択します。

Settings & Maintenance



2 「Browse」をクリックします。



3 ファイル選択画面からプリセットファイルを選択して開きます。

4 「Import」をクリックします。

- 設定反映に数分かかる場合があります。



≫ プリセットが読み込まれます。

Camera

Device

項目名	説明
Enabled	カメラ連動機能を設定します。「ON」（青色）に設定すると、カメラ連動機能が使用可能になります。
Protocol ^[1]	使用するプロトコルを選択します。
IP Address ^[1]	使用するカメラのIPアドレスを入力します。
Port Number ^[1]	使用するプロトコルによって次のとおり設定します。 VISCA over IP：52381 ^[2] Panasonic：カメラで設定したポート番号

[1] 「Enabled」を「ON」（青色）に設定した場合に設定できます。

[2] VISCA over IPはソニー株式会社が開発した通信規格で、IPネットワーク上でカメラの遠隔制御を行うものです。通信規格の仕様上、指定通信ポートは「52381」を使用します。VISCA over IPでカメラ連動機能を使用する場合は、設定項目内の「Port Number」を「52381」に設定してください。

Talk Setting

項目名	説明
Talk To Recall Preset	話者が話し始めてから、何秒でカメラのプリセットが呼び出されるか（カメラが動くか）を設定します。 この機能は、短い発言ですぐにカメラが動かないようにする場合などのときに設定します。

Silent Setting

項目名	説明
Enabled	無音時間を設定します。「ON」（青色）に設定すると無音時間設定が使用可能になります。
Time To Go Back Home ^[1]	無音状態が何秒続いたら、カメラのプリセットを呼び出すか（カメラがどの位置に戻るか）を設定します。この機能は、無音状態では特定の人物にフォーカスするのではなく、全体を映すようにするなどする場合に設定します。
Position ^[1]	無音状態時にどこにカメラを戻すかを設定します。

[1] 「Enabled」を「ON」（青色）に設定した場合に設定できます。

Logging

ログメッセージに関する設定とログファイルのダウンロードをします。

Settings & Maintenance

項目名	説明
Enabled	ログメッセージを保存するか設定します。「ON」（青色）に設定すると、ログメッセージを保存します。
Destination ^[1]	ログメッセージを内部メモリに書き出すか、またはSyslogサーバーに転送するかを設定します。
Log File ^[1]	「Download」をクリックすると、内部メモリに記録されたログファイルをダウンロードできます。

[1] 「Enabled」をONに設定した場合に設定できます。



- Syslogとは、IPネットワーク上でログメッセージを転送するための標準規格です。コンピューターシステムの管理やセキュリティ監視を目的として使用されています。

System Info

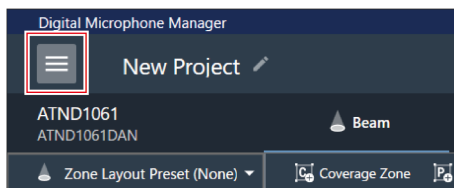
各種ネットワーク設定、本製品のシリアル番号やファームウェアバージョンなど、システムに関する情報を表示します。「Export」をクリックすると、システム情報をテキストファイルに書き出すことができます。本項目はマイクロホンを接続しているときのみ表示されます。

アプリケーション設定

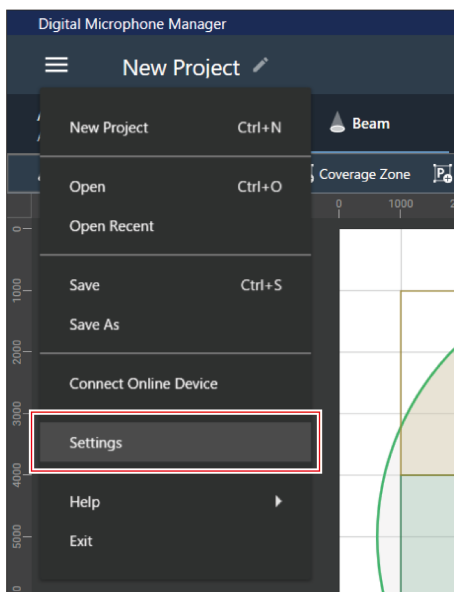
Settings画面の基本操作

アプリケーション設定やEQプリセット／ゾーンレイアウトプリセットを設定します。

- 1 メインメニューをクリックします。



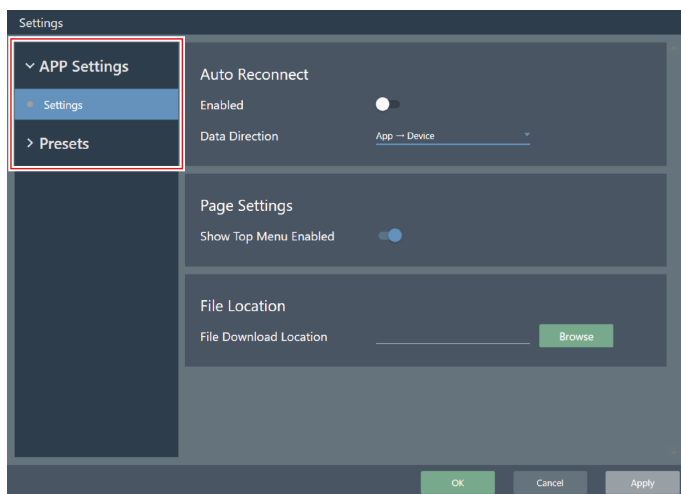
- 2 「Settings」をクリックします。



≫ Settings画面が表示されます。

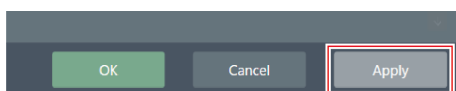
- 3 設定メニューを開き、設定項目をクリックして選択します。

アプリケーション設定



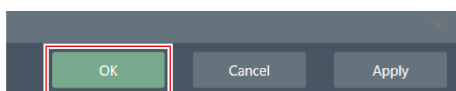
4 設定が完了したら、「Apply」をクリックします。

- 「Cancel」をクリックすると、設定を中止することができます。



≫ 設定が適用されます。

5 「OK」をクリックして終了します。



Settings (APP Settings)

Auto Reconnect

項目名	説明
Enabled	プロジェクトファイルを開いたときに、同じネットワーク内に以前接続していたマイクロホンが存在する場合に自動で再接続します。「ON」（青色）に設定すると、有効にします。
Data Direction	「App → Device」に設定すると、アプリケーションの設定情報がマイクロホンに反映されます。 「Device → App」に設定すると、マイクロホンの設定情報がアプリケーションに呼び出されます。

Page Settings

項目名	説明
Show Top Menu Enabled	アプリケーション起動時にトップメニュー画面を表示するかを設定します。 「ON」（青色）に設定すると、トップメニュー画面を表示します。

File Location

項目名	説明
File Download Location	ファイルを保存するときに最初に表示される保存場所を設定します。

4 Band EQ Library (Presets)

EQプリセットまたはライブラリーをファイルに書き出したり、読み込ませたりします。

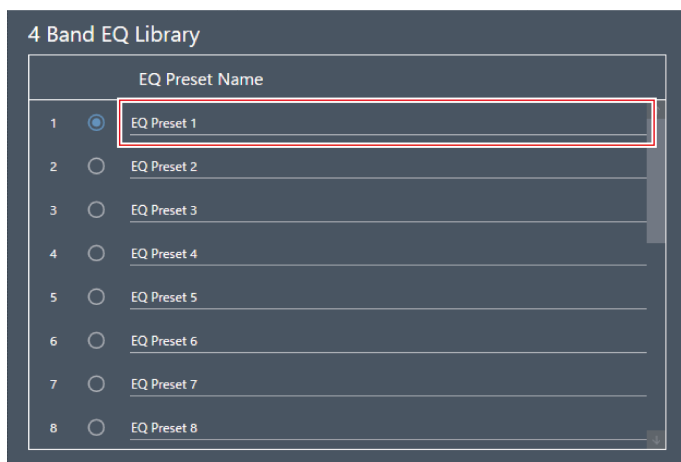
- EQプリセットについては、4バンドEQの「詳細モードで調整する」(p.65)を確認してください。

項目名	説明
4 Band EQ Library	読み込んでいるライブラリー内のEQプリセットの一覧です。
EQ Preset	「4 Band EQ Library」の一つをファイルに書き出したり、読み込ませたりします。
Library	「4 Band EQ Library」の一覧すべてをファイルに書き出したり、読み込ませたりします。

EQプリセット名を変更する

- 1 変更したいEQプリセット名をクリックします。

アプリケーション設定

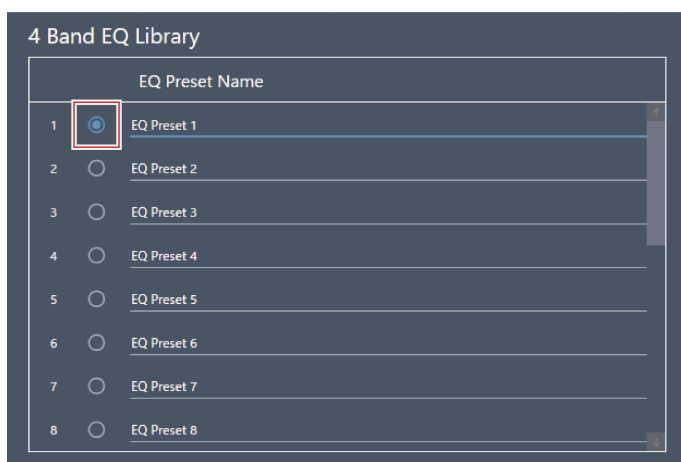


2 EQプリセット名を入力します。

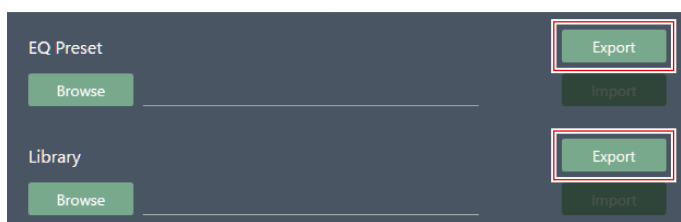
EQプリセット／ライブラリーを書き出す

1 「4 Band EQ Library」でファイルに書き出すEQプリセットのボタンをクリックして選択します。

- ライブラリーを書き出す場合は、EQプリセットを選択する必要はありません。



2 「EQ Preset」または「Library」の「Export」をクリックします。



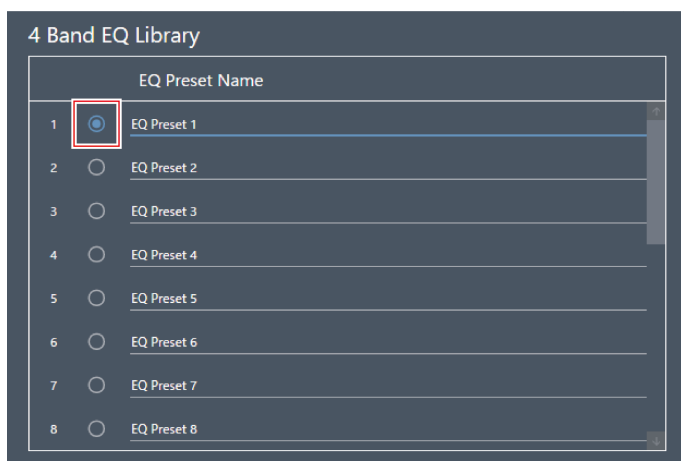
アプリケーション設定

3 保存先・ファイル名を設定して書き出します。

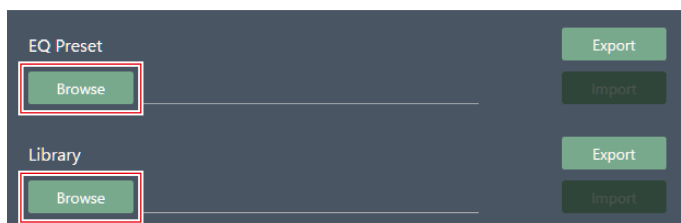
EQプリセット／ライブラリーを読み込む

1 「4 Band EQ Library」で読み込み先のEQプリセットのボタンをクリックして選択します。

- ライブラリーを読み込む場合は、EQプリセットを選択する必要はありません。

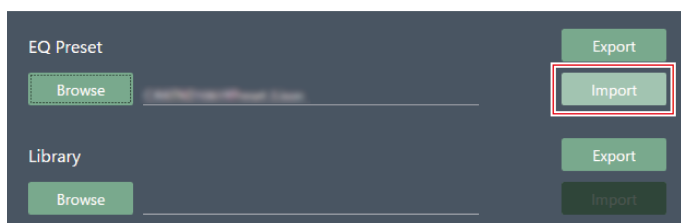


2 「EQ Preset」または「Library」の「Browse」をクリックします。



3 ファイル選択画面からファイルを選択して開きます。

4 読み込むファイルの「Import」をクリックします。



≫ EQプリセットまたはライブラリーが読み込まれます。

Zone Layout Library (Presets)

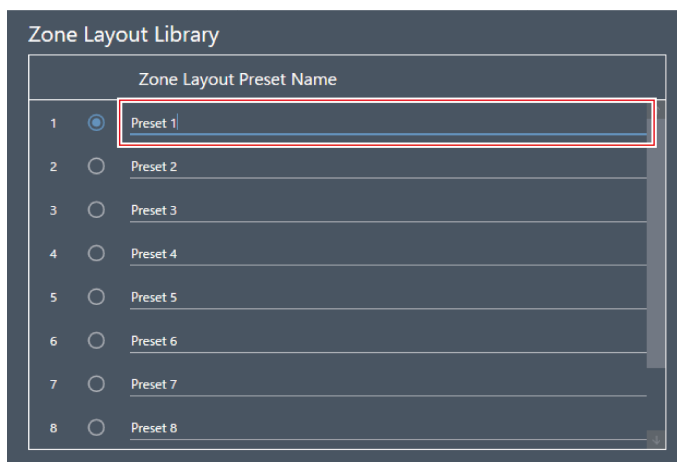
ゾーンレイアウトプリセットまたはライブラリーをファイルに書き出したり、読み込ませたりします。

- ゾーンレイアウトプリセットについては、「ゾーンレイアウトプリセットについて」(p.53)を確認してください。

項目名	説明
Zone Layout Library	読み込んでいるライブラリー内のゾーンレイアウトプリセットの一覧です。
Zone Layout Preset	「Zone Layout Library」の一つをファイルに書き出したり、読み込ませたりします。
Library	「Zone Layout Library」の一覧すべてをファイルに書き出したり、読み込ませたりします。

ゾーンレイアウトプリセット名を変更する

- 変更したいゾーンレイアウトプリセット名をクリックします。

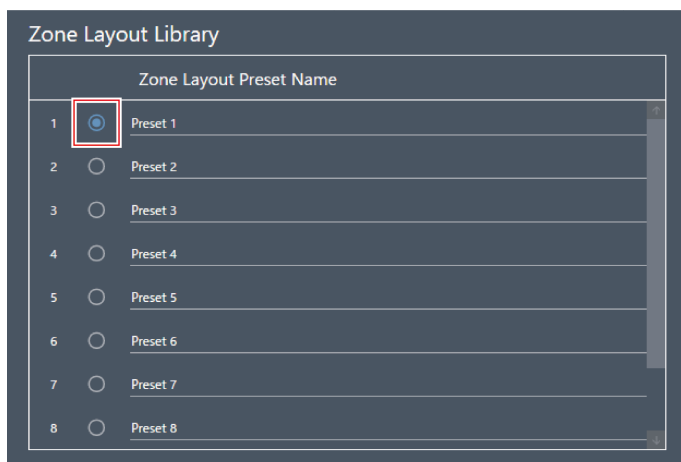


- ゾーンレイアウトプリセット名を入力します。

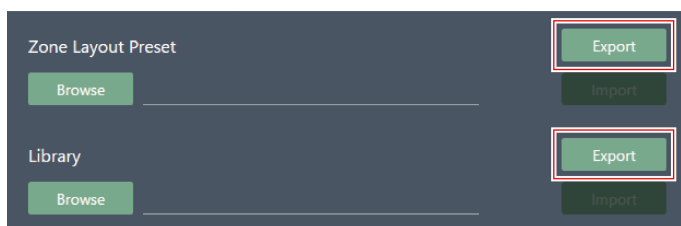
ゾーンレイアウトプリセット／ライブラリーを書き出す

- 「Zone Layout Library」でファイルに書き出すゾーンレイアウトプリセットのボタンをクリックして選択します。
 - ライブラリーを書き出す場合は、ゾーンレイアウトプリセットを選択する必要はありません。

アプリケーション設定



- 2 「Zone Layout Preset」または「Library」の「Export」をクリックします。

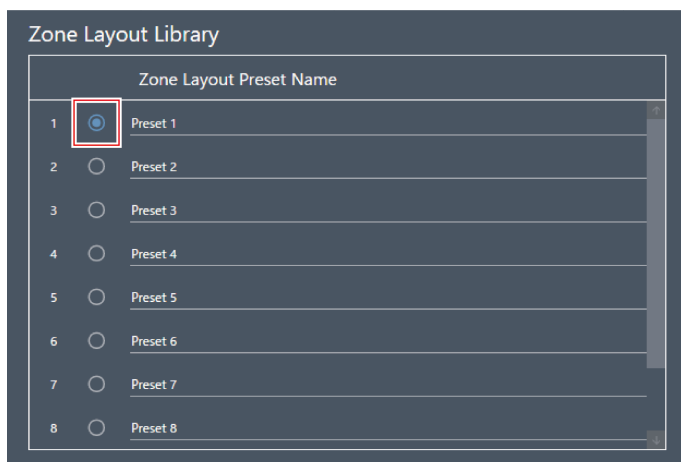


- 3 保存先・ファイル名を設定して書き出します。

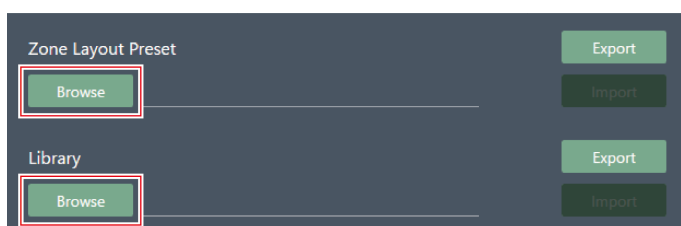
ゾーンレイアウトプリセット／ライブラリーを読み込む

- 1 「Zone Layout Library」で読み込み先のゾーンレイアウトプリセットのボタンをクリックして選択します。
- ライブラリーを書き出す場合は、ゾーンレイアウトプリセットを選択する必要はありません。

アプリケーション設定

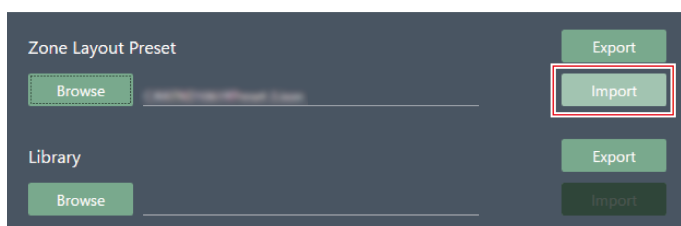


- 2 「Zone Layout Preset」または「Library」の「Browse」をクリックします。



- 3 ファイル選択画面からファイルを選択して開きます。

- 4 読み込むファイルの「Import」をクリックします。

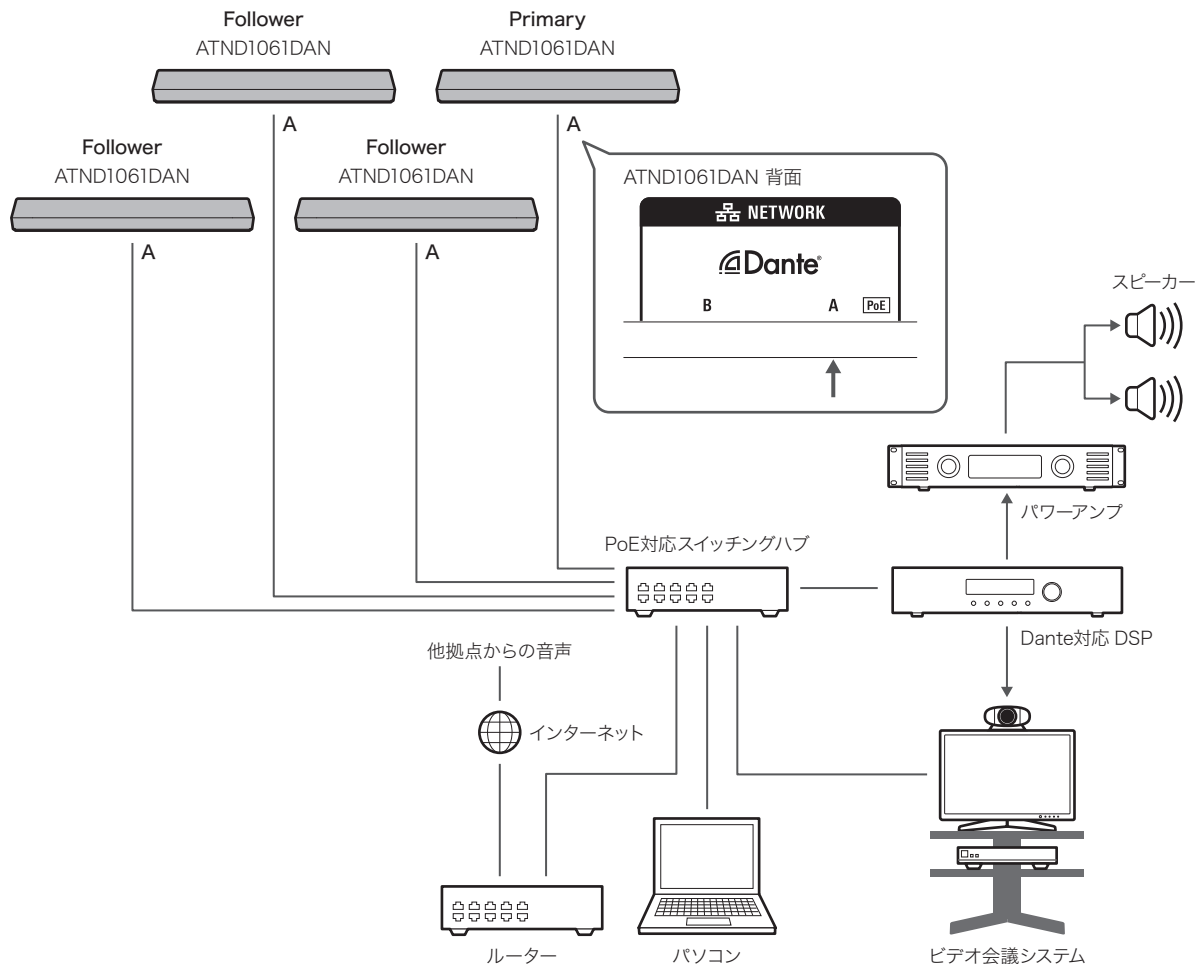


≫ ゾーンレイアウトプリセットまたはライブラリーが読み込まれます。

複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061DAN)

複数台のATND1061DANをひとつのマイクロホングループとしてオートミックスを行うことができます。

- ここでは、接続しているマイクロホンのうち、主となる1台をPrimary、その他をFollowerと呼びます。
- 複数台でオートミックスを行う場合、オートミックスされたマイクロホンの出力はPrimaryの「Auto Mix」チャンネルから取り出せます。



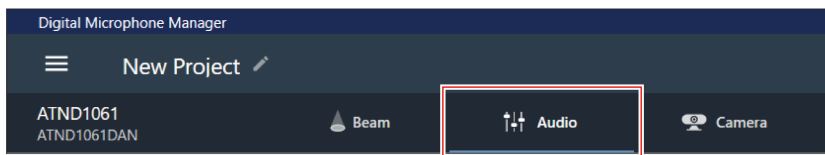
Digital Microphone Managerの設定

1 メインエリアでマイクロホンを選択します。

» マイクロホン設定画面が表示されます。

2 「Audio」をクリックします。

複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061DAN)



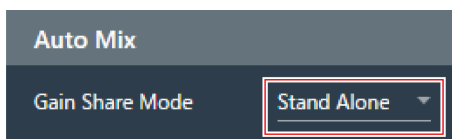
≫ オーディオ設定画面が表示されます。

3 オーディオ詳細設定の「Auto Mix」をクリックします。



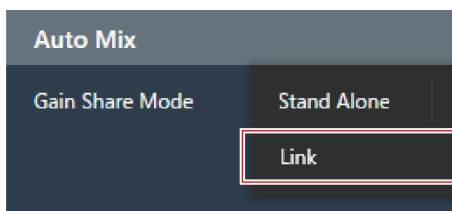
≫ オーディオ詳細設定とチャンネルオーディオ設定に「Auto Mix」が表示されます。

4 「Gain Share Mode」の赤枠部分をクリックします。

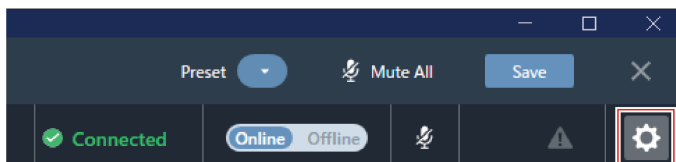


5 プルダウンの「Link」をクリックします。

- すべてのマイクロホンに同じ設定を行います。



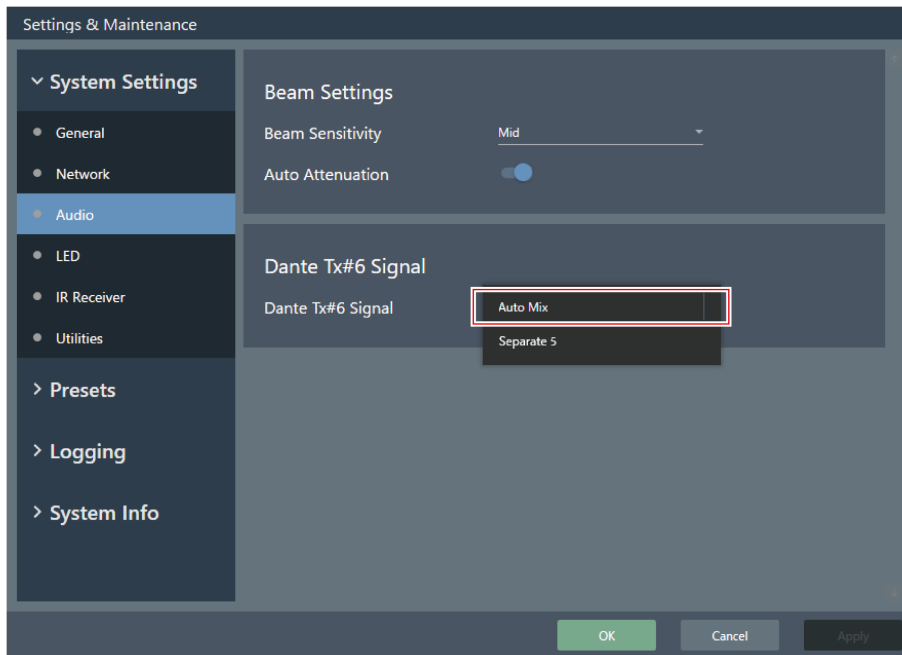
6 赤枠部分をクリックします。



≫ Settings & Maintenance画面が表示されます。

複数台接続のオートミックス設定（ATND1061DAN）

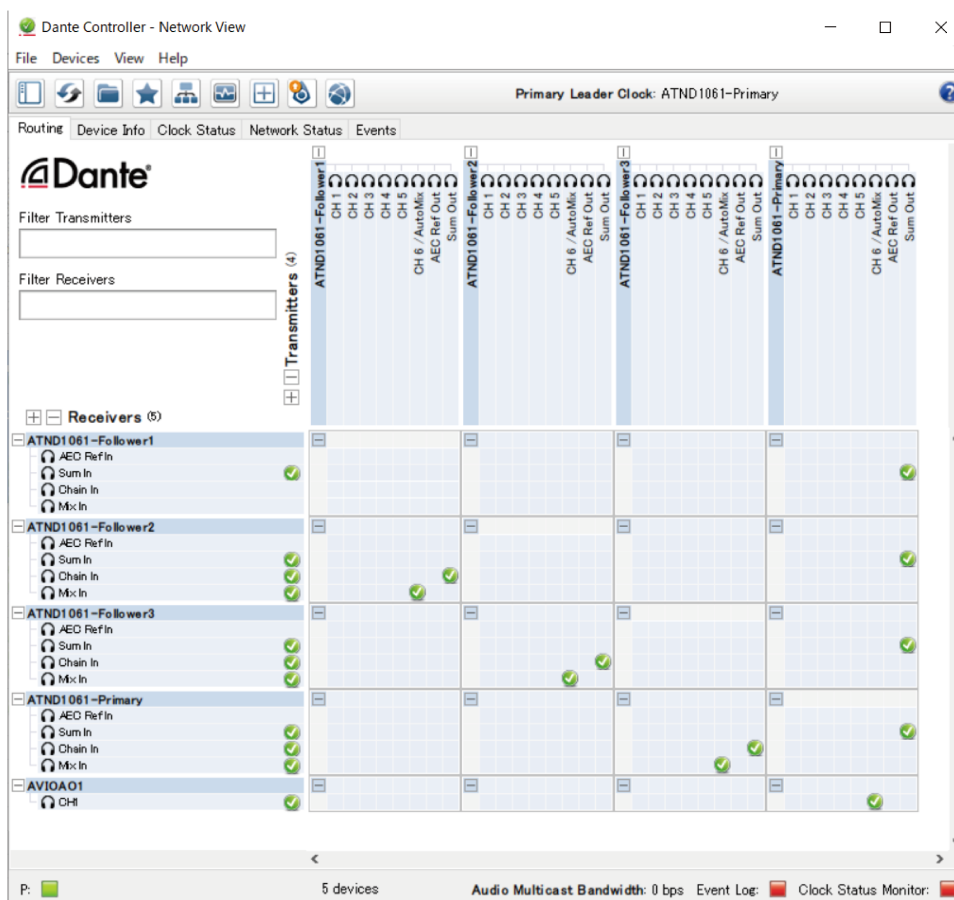
- 7 「System Settings」 > 「Audio」 をクリックします。
- 8 「Dante Tx#6 Signal」 を「Auto Mix」 に設定します。
 - すべてのマイクロホンに同じ設定を行います。



Dante Controllerの設定

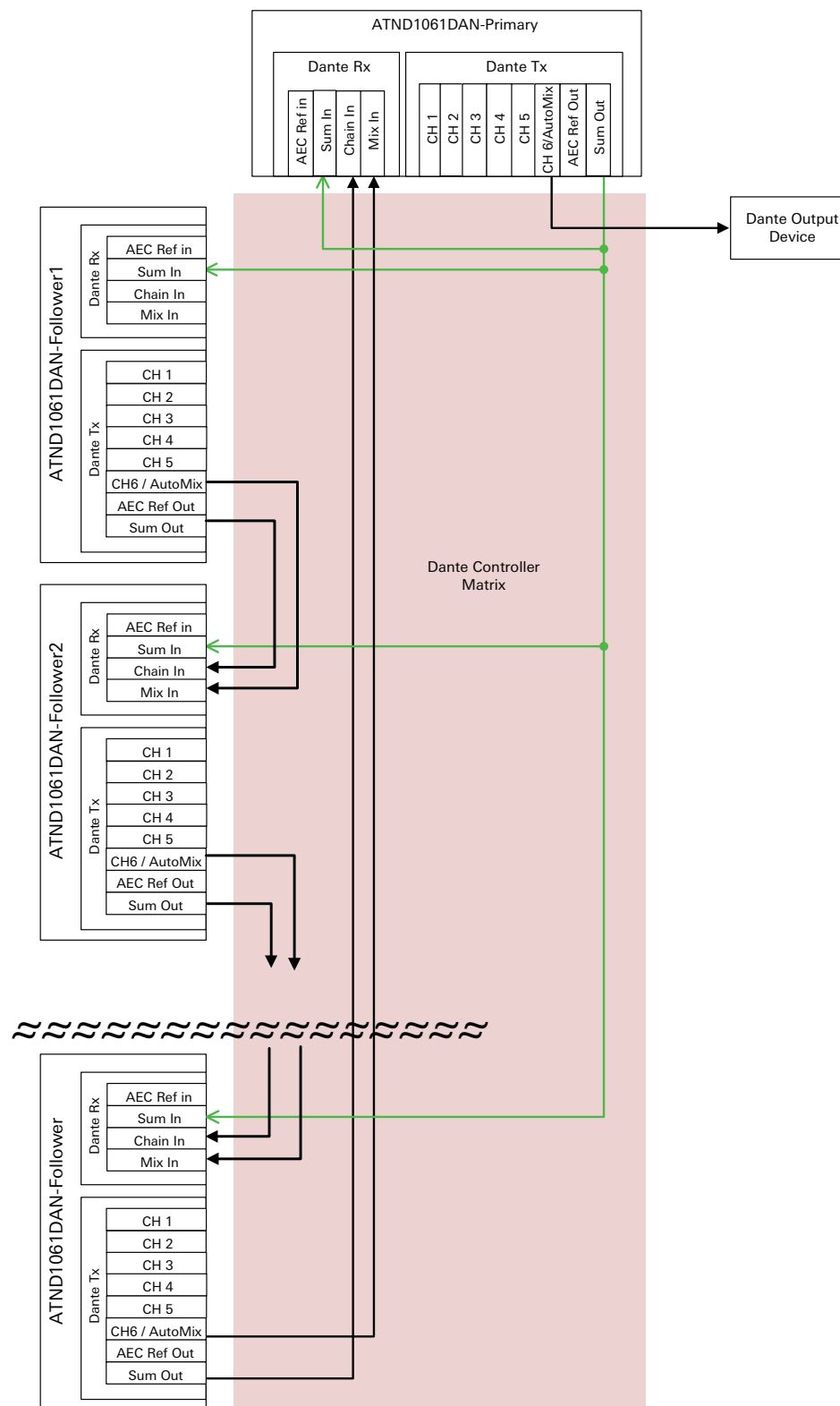
Dante Controllerで次のようにルーティングの設定を行います。

複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061DAN)



Transmitters	Receivers
Follower1 : Auto Mix	Follower2 : Mix In
Follower1 : Sum Out	Follower2 : Chain In
Follower2 : Auto Mix	Follower3 : Mix In
Follower2 : Sum Out	Follower3 : Chain In
Follower3 : Auto Mix	Primary : Mix In
Follower3 : Sum Out	Primary : Chain In
Primary : Auto Mix	出力機器
Primary : Sum Out	PrimaryとすべてのFollower : Sum In

信号系統イメージ

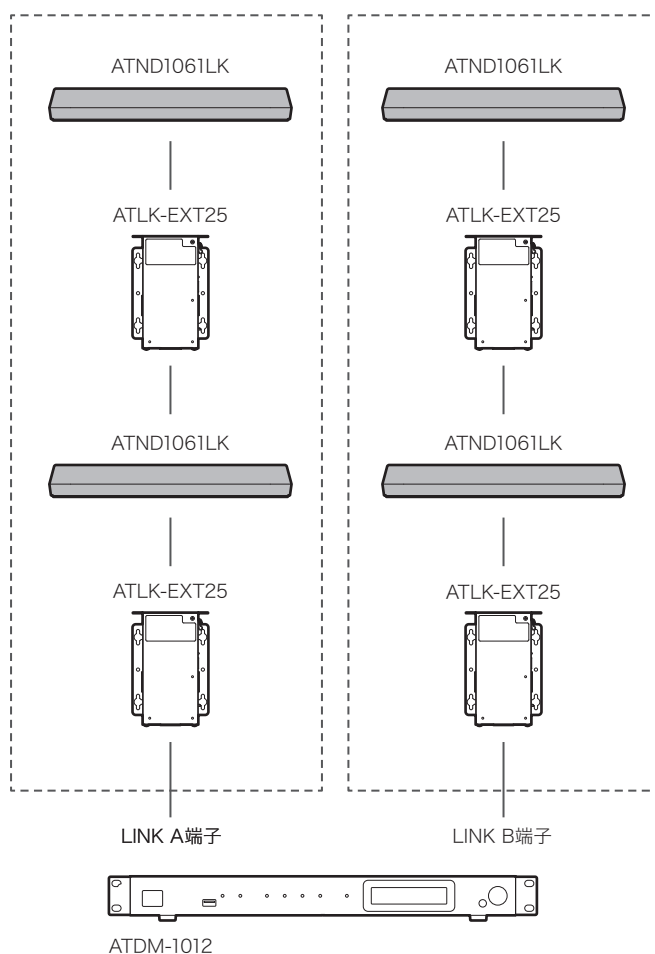


複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061LK)

複数台のATND1061LKをひとつのマイクロホングループとしてオートミックスを行うことができます。ATND1061LKの本体設定は「複数台接続のオートミックス設定 (ATND1061DAN)」の「Digital Microphone Managerの設定」(p.109)の操作手順1～5を行ってください。

ゲインシェアについて

ATND1061LKを複数使用した場合、ゲインシェアが共有されるのは図の点線で囲った範囲です。ATDMシリーズのミキサーのLINK A端子またはLINK B端子それぞれのゲインシェアは独立しており、各端子に接続されたATND1061LK同士のゲインシェア機能がリンクして動作します。



強制アップデートについて

ファームウェアのアップデート中に電源切断などの障害が発生し、アップデートが正常に終了しなかった場合、電源を入れても、エラーが発生して、正常に起動しないことがあります。その場合、ファームウェアの強制アップデートを行うことで、マイクロホンに正常に復旧させることができます。

1 接続するコントロール機器のIPアドレスを固定します。

- マイクロホンが、アップデート中の障害により、起動エラーが発生している場合、以下の設定になります。
IP Config Mode : Static
IP Address : 192.168.33.102
Subnet Mask : 255.255.255.000
- マイクロホンとネットワーク接続するためには、Windowsパソコン/MacのIP アドレスを「192.168.33.102」と通信できるアドレスに固定します。（例：192.168.33.100）

2 コントロール機器がマイクロホンと同じネットワークになるように接続します。

3 コントロール機器のウェブブラウザを起動します。

4 ウェブブラウザの履歴・キャッシュを削除します。

- 履歴・キャッシュをクリアしないと、ウェブリモートを起動した際に、表示や機能が正しく動作しないことがあります。

5 マイクロホンのIPアドレス「192.168.33.102」を入力します。

≫ ウェブリモートが強制アップデートモードで起動します。

6 バージョンアップファイルを選択して、開きます。

7 「Update」をクリックします。

≫ アップデートが開始されます。アップデートが完了すると、マイクロホンが自動的に再起動します。再起動したあと、IP Config Modeが「Auto」に切り替わります。

8 ウェブリモートまたはDigital Microphone ManagerのFirmware Update画面からバージョンを確認します。

- 「Firmware Version」で、マイクロホンが正しくアップデートされていることを確認してください。



- ファームウェアの追加機能や改善項目の内容により、アップデート後、ウェブリモートを起動した際に、表示や機能が正しく動作しないことがあります。その場合は、ご使用のウェブブラウザの履歴・キャッシュを削除してください。

エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	説明
Cannot import file type.	読み込もうとしているファイルは、対応しているファイル形式ではありません。対応しているファイル形式のファイルを読み込んでください。
Data is not valid.	読み込んだファイルの中に設定できない数値が入っています。別のファイルを読み込んでください。
Digital Microphone Manager is already open. Please close Digital Microphone Manager to open a new session.	Digital Microphone Managerを重複して起動しようとしています。
Online device is not responding. Try again or check user manual for troubleshooting.	接続したマイクロホンからの応答がありません。ネットワークの接続状態に問題がないか確認してください。
Priority Zones cannot overlap.	プライオリティゾーンを2つ重ねて設定しようとしています。プライオリティゾーン同士が重ならないように設定してください。
Must be placed within microphone coverage Zone.	收音エリア外にビームゾーンを設定しようとしています。收音エリア内に入るようビームゾーンを設定してください。
Changing the Elevation Exclusion Angle has caused one or more defined zones to move outside of the coverage zone. Determine if set zones need to be repositioned.	收音エリア角度の設定を変更した際に、ビームゾーンが收音エリアから外れてしまいました。收音エリア内に入るようビームゾーンを設定してください。
This exceeds the maximum number of devices that can be added.	追加できるマイクロホンの数を超えています。マイクロホンの追加は、1つのプロジェクトにつき20台までです。
This exceeds the maximum number of zones that can be added.	設定できるエリアの数を超えています。カバレッジゾーン・プライオリティゾーン・エクスクルージョンゾーンの設定は、1つのマイクロホンにつき各16箇所までです。カメラエリアの設定は、1つのマイクロホンにつき15箇所までです。
Fail to save project file.	プロジェクトの保存に失敗しました。再度操作してエラーが発生するか確認してください。
Please check network connection.	マイクロホンとの同期中に異常が発生しました。ネットワークの接続状態に問題がないか確認してください。
The device is processing.	マイクロホンがビジー状態です。少し時間を空けてから再度操作してください。
Device must be placed within Room height.	部屋の高さをマイクロホンの設置高さより低く設定しようとしています。部屋の高さよりマイクロホンの設置高さが低くなるように設定してください。
Data is not valid. Beam zone must be placed within device height.	読み込んだゾーンレイアウトプリセットのビームゾーンの高さが、マイクロホンの高さよりも高く設定されています。ビームゾーンの高さよりマイクロホンが高くなるように設定してください。
Beam zone must be placed within device height.	マイクロホンの設置高さをビームゾーンより低く設定しようとしています。マイクロホンの設置高さよりビームゾーンが低くなるように設定してください。
Camera Communication Error	カメラとの通信ができていません。配線やネットワーク設定、カメラ側の電源を確認してください。
There are some functions disabled to use since the installed firmware version is old.	古いバージョンのマイクロホンと接続されています。マイクロホンを最新のファームウェアにアップロードしてご使用ください。

商標について

- Microsoft[®]、Windows[®]は、米国Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。
- Windows はMicrosoft Windows operating system の略称として表記しています。
- その他、本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1
www.audio-technica.co.jp

Audio-Technica Corporation

2-46-1 Nishi-naruse, Machida, Tokyo 194-8666, Japan
www.audio-technica.com
©2024 Audio-Technica Corporation
Global Support Contact: www.at-globalsupport.com

142700170-01-08

ver.1 2022.02.01
ver.8 2024.11.15